

3.5 ケニア

3.5.1 基本指標

(1) 概況

アフリカ大陸の東海岸に位置するケニア共和国（以下「ケニア」という）は、赤道が国土を二分しており、首都ナイロビは赤道直下にある。北はエチオピアとスーダン、東はソマリア、西はウガンダ、そして南はタンザニアと隣接し、アフリカ大陸で2番目に高いケニア山、インド洋に沿った海岸線、世界でも重要な動物保護区のあるサバンナなど多様な地形を持つ。国土面積は、586,600平方キロメートルと日本の約1.5倍の面積であり、様々な国立公園があるが、ケニア最大の国立公園のツァボ国立公園⁴⁶⁹は、四国よりも広く、イギリスを構成する4つの国の1つであるウェールズとほぼ同じ大きさである。40を超える多民族から構成される5,257万人(2019年)の国民の国語はスワヒリ語であり、ほぼすべての国民に話されている第一公用語である。1963年にイギリスから独立したケニアの国旗は、黒、赤、緑の太いストライプに、白の細いラインが入り、中央部には槍と盾が配置されている。これは、ケニア人を表す黒、ケニアがイギリスからの独立の際に流した血を表す赤、ケニアの大地を表す緑、そして、白は平和を象徴している。共和制の下、2017年に再選されたケニヤッタ大統領は、「統一、経済、開放性」の三原則を掲げ、2030年までの中所得国入りを目指す「ヴィジョン2030」の推進、地方への権限委譲や反汚職等の透明性確保の取組を進めている。近年、堅調な成長を続け、地域経済の中心的役割を担うケニアは、周辺国の経済において主導的な役割を果たしている。産業構造は、比較的工業化が進んでいるものの、コーヒー、紅茶、綿花、園芸作物などの農産物生産を中心とする農業国であり、2019年時にはGDPの3割強を農業が占める。また、東アフリカ諸国の玄関口である東アフリカ最大のモンバサ港を擁しウガンダやルワンダ等に続く東アフリカ北部回廊の起点として、これらの国への物流拠点となっている⁴⁷⁰⁴⁷¹。

主要民族

国名	主要民族
ケニア	キクユ族、ルヒヤ族、カレンジン族、ルオ族、カンバ族等

オフィシャル言語、主要言語

国名	オフィシャル言語、主要言語
ケニア	スワヒリ語、英語

⁴⁶⁹ ツァボイースト国立公園とツァボウエスト国立公園がある。

⁴⁷⁰ 外務省 ケニア共和国基礎データ 参照

⁴⁷¹ JETRO ケニア 概況・基本統計 参照

宗教

国名	宗教
ケニア	伝統宗教、キリスト教、イスラム教

主要産業

国名	主要産業
ケニア	(農) コーヒー、紅茶、園芸作物、サイザル麻、綿花、とうもろこし、除虫菊 (工) 食品加工、ビール、タバコ、セメント、石油製品、砂糖 (鉱) ソーダ灰、ほたる石

主要貿易相手国

国名	主要貿易相手国
ケニア	(1) 輸出：ウガンダ、パキスタン、米国、オランダ、英国 (2) 輸入：中国、インド、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、日本 (2019年ケニア国家統計局)

主要援助国（2018-2019 平均）⁴⁷²

主要援助国	援助額（百万ドル）
アメリカ	762
日本	257
イギリス	165
フランス	122
EU	104

対日貿易関係

国名	経済関係
ケニア	1.日本の対ケニア貿易 (1) 貿易額（2020年、財務省統計） 輸出：768億円 輸入：73億円 (2) 主要品目 輸出：乗用自動車、貨物自動車、鉄鋼、機械 輸入：切り花、紅茶、コーヒー、魚切身、ナッツ類 2.日本からの直接投資 105億円（2017年、日本銀行「国際収支統計（業種別・地域別直接投資）」）

⁴⁷² 出典

https://public.tableau.com/views/OECDDACAidatag glancebyrecipient_new/Recipients?:embed=y&:display_count=yes&:showTabs=y&:toolbar=no?&:showVizHome=no

在留邦人数

調査時点	在留邦人数
2019年10月1日	685名
2021年10月1日	652名

海外進出日系企業拠点数 2019年10月1日現在

分類			拠点数
企業拠点数			89
企業形態	本邦企業の海外支店等		13
	本邦企業が100%出資した現地法人	法人	23
		支店等	20
	合弁企業（本邦企業による直接・間接の出資比率が10%以上の現地法人）	法人	9
		支店等	3
日本人が海外に渡って興した企業（日本人の出資比率10%以上）		21	
区分不明			0

業種別海外進出日系企業拠点数 2019年10月1日現在

業種	拠点数
農業、林業	0
漁業	0
鉱業、採石業、砂利採集業	1
建設業	8
製造業	20
電気・ガス・熱供給・水道業	1
情報通信業	5
運輸業、郵便業	4
卸売業・小売業	20
金融業、保険業	2
不動産業、物品賃貸業	0
学術研究、専門・技術サービス業	7
宿泊業、飲食サービス業	4
生活関連サービス業、娯楽業	0
教育、学習支援業	0
医療、福祉	3
サービス業（他に分類されないもの）	14
分類不能の産業及び区分不能	0

在日ケニア人数

調査時点	在日当該国人数
2019年12月末	789名
2020年12月末	803名

二国間条約・取極

国名	二国間条約・取極
ケニア	<ul style="list-style-type: none"> ● 1966年 青年海外協力隊派遣取極 ● 1984年 同取極一部改正 ● 2004年 技術協力協定 ● 2017年 投資協定

(2) 日本との関係

i) 歴史的背景及び国交状況

日本は、1963年12月、ケニア独立と同時に同国を承認した。1964年6月に駐ケニア大使館を設置し、1979年1月には駐日ケニア大使館が開設された。ケニアはサブサハラ・アフリカにおいて、日本のODAの最大供与国である。日本は農業、水道・衛生、健康や医療ケア、教育、環境保全など幅広い分野にて支援している。東アフリカ地域の中心的な医学研究所であるケニア中央医学研究所（Kenya Medical Research Institute: KEMRI）をはじめ、特に理数科系の分野で多くの優秀な人材を輩出しているジョモ・ケニヤッタ農工大学（Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology: JKUAT）等、日本は人材育成支援の分野にも力を入れている⁴⁷³。首都ナイロビには、日本の政府関連機関や大手企業の地域本部があり、アフリカ最大規模の日本人コミュニティがある。ケニアはサブサハラ・アフリカにおいては日本語学習者数の上位国であるが、背景には、当地に一定数の日本人が定住していること、毎年日本から少なからず観光客が訪れることから観光業等において日本語会話の需要があること、日本がケニアに対する主要な援助国であること、国交樹立以来の日本への各種留学生・研修生等が数千人にのぼること、それらの結果、日本人との接触の機会が多いこと、などが挙げられる⁴⁷⁴。文化交流も盛んで、日本人の陸上競技者たちが、世界的に有名なケニアの高地トレーニングキャンプを訪れ、練習を行っている。また、観光業はケニア経済にとって重要な牽引役であるが、沿岸部において日本が支援したインフラ整備事業がその基礎となっている⁴⁷⁵。

ii) 要人の往来

年月	要人の往来（日本側は大臣級、アフリカ側は大統領、首相級）
2001年1月	森総理大臣がケニア訪問

⁴⁷³ 外務省 ケニア基礎データ

⁴⁷⁴ <<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2019/kenya.html>>

⁴⁷⁵ <<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000138319.pdf>>

2004年11月	TICAD アジア・アフリカ貿易投資会議出席のためキバキ大統領、ムワクウェレ外相、キトゥイ貿易産業相、ニヨンゴ計画・国家開発相、トゥジュ情報通信相が訪日
2006年9月	中川農林水産大臣がケニア訪問
2006年11月	若林環境大臣がケニア訪問
2008年5月	TICADIV出席のためキバキ大統領、ケニヤッタ副首相兼貿易相、ウエタングラ外相、キムニャ財務相、オパラニャ計画・国家開発・ヴィジョン2030担当相、コネス道路相、ルト農業相、バララ観光相が訪日
2010年2月	オディンガ首相、マータイ元環境・天然資源副大臣が訪日
2010年3月	皇太子殿下がケニア訪問
2013年6月	TICADV出席のためルト副大統領、モハメド産業化企業開発長官、カマウ運輸インフラ長官、チルチル・エネルギー石油長官が訪日
2013年8月	茂木経済産業大臣がケニア訪問
2015年3月	第3回国連防災世界会議出席のためケニヤッタ大統領、アミナ・モハメド外務・国際貿易長官、カマウ運輸インフラ長官、ロティチ財務長官が訪日
2015年7月	エスロ上院議長が訪日
2015年12月	WTO 閣僚会議（MC10）出席のため林経済産業大臣、山田外務大臣政務官、佐藤農林水産大臣政務官がケニア訪問
2016年8月	TICADVI出席のため安倍総理大臣、岸田外務大臣、塩崎厚労大臣他がケニア訪問
2018年8月	茂木経済再生担当大臣がケニア訪問
2019年8月	TICADVII出席のためケニヤッタ大統領、ジュマ外務長官、マチャリア運輸長官、マゴハ教育長官、ヤッタニ財務長官代行他が訪日
2019年10月	即位の礼参列のためケニヤッタ大統領が訪日
2021年1月	茂木外務大臣がケニア訪問

(3) 教育科学技術予算を含む国家財政状況

IMF 算出のケニアの国家財政収支を下のグラフに示す。

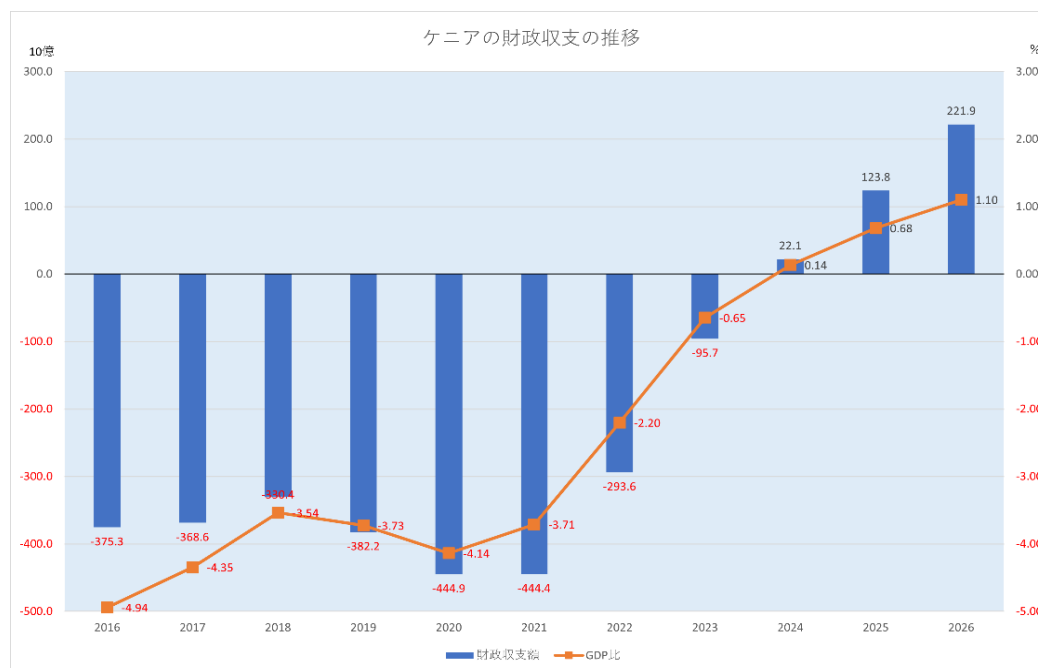


図 3.5-1 ケニアの財政収支の推移⁴⁷⁶

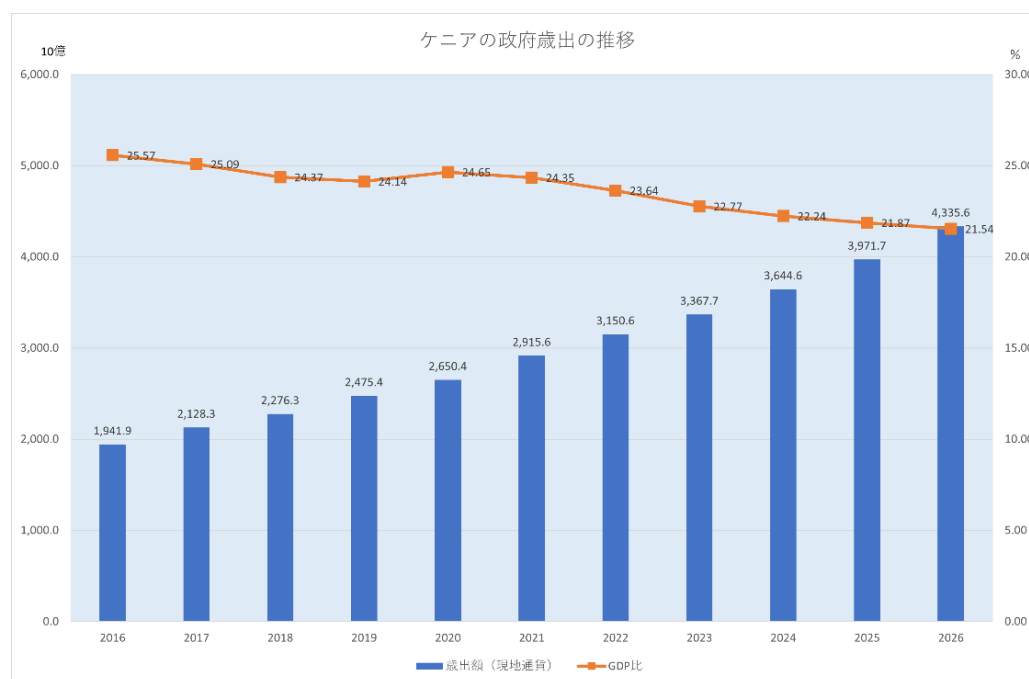


図 3.5-2 ケニアの政府歳出の推移⁴⁷⁷

⁴⁷⁶ International Monetary Fund, World Economic Outlook Database, October 2021

⁴⁷⁷ International Monetary Fund, World Economic Outlook Database, October 2021

ケニア政府の教育支出について、以下に UNESCO が算出したグラフを示す。

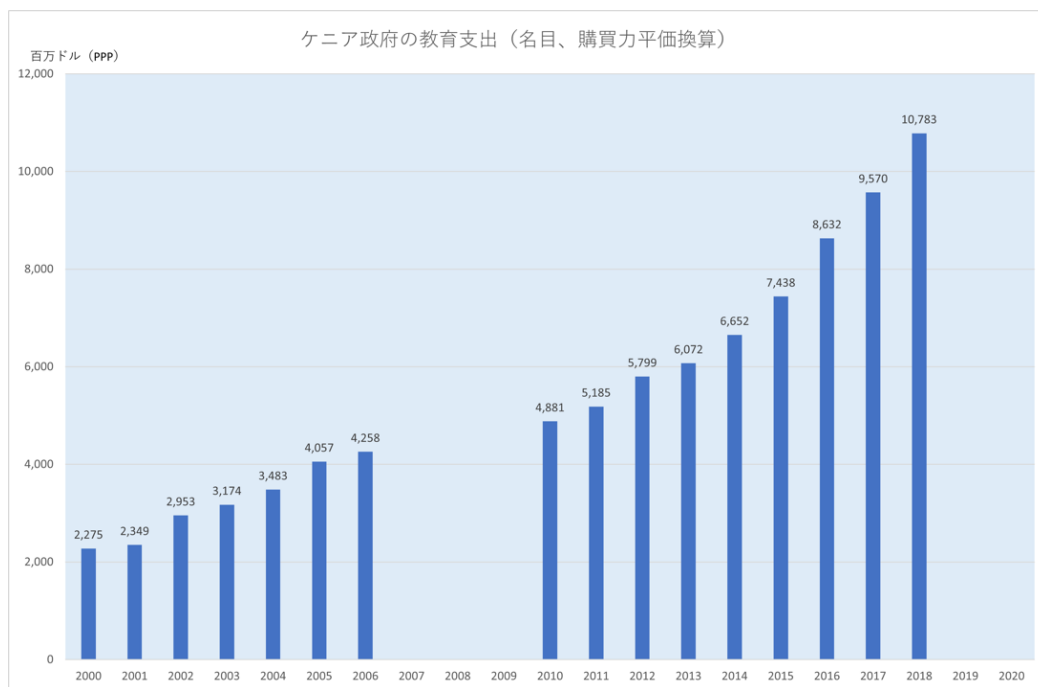


図 3.5-3 ケニア政府の教育支出（名目、購買力平価換算）⁴⁷⁸

⁴⁷⁸ UNESCO 統計 <http://data.uis.unesco.org/Index.aspx?DataSetCode=NATMON_DS#>

(4) 年代別人口推移（推計値含む）

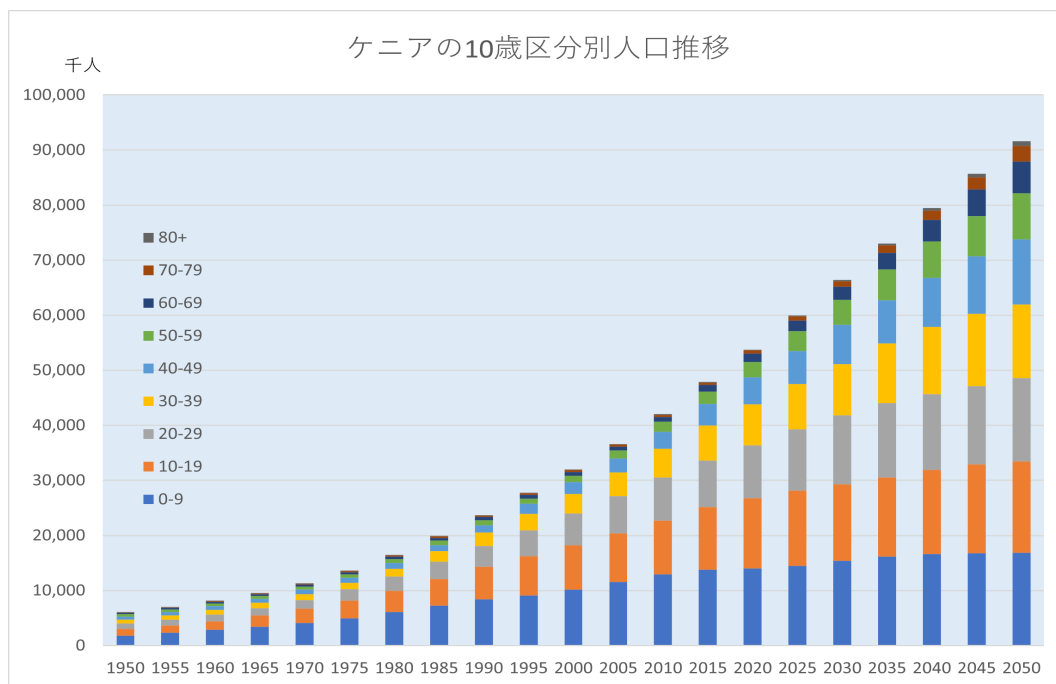


図 3.5-4 10歳区分別人口推移⁴⁷⁹

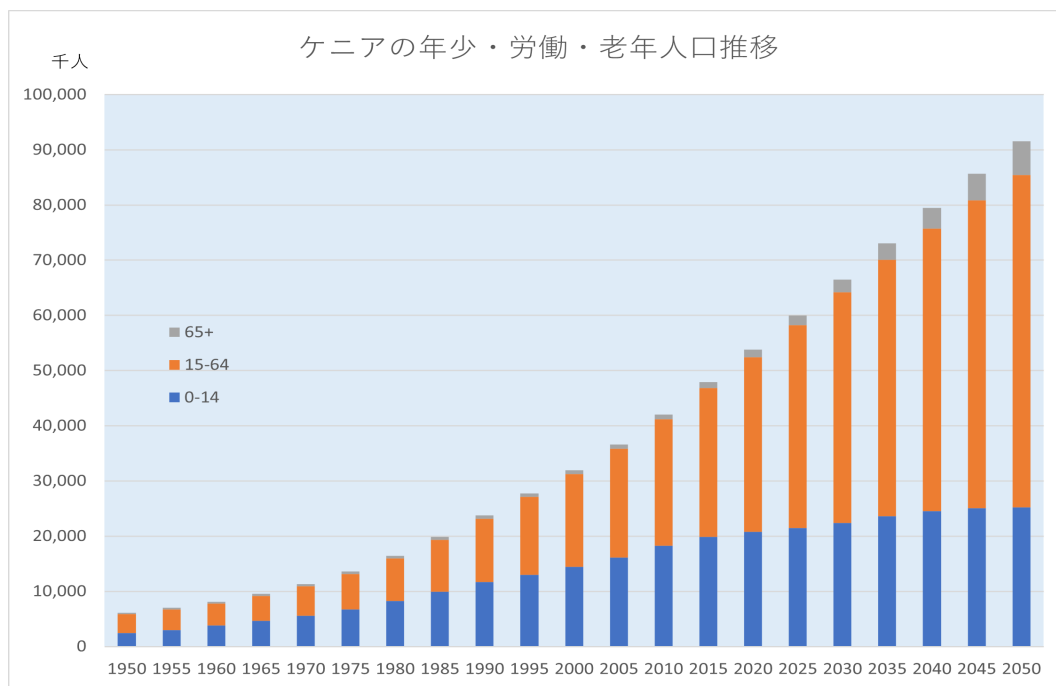


図 3.5-5 年少・労働・老年人口推移⁴⁸⁰

⁴⁷⁹ 国連人口統計 World Population Prospects 2019

⁴⁸⁰ 同上

(5) 経済指標

表 3.5-1 GDP 等推移⁴⁸¹

	2016	2017	2018	2019	2020
名目 GDP (10 億ドル)	74.8	82.0	92.2	100.5	102.4
実質 GDP 成長率	4.21%	3.82%	5.63%	4.98%	-0.32%
一人当たり名目 GNI (ドル、アトラスメソッド)	1,350	1,420	1,600	1,750	1,760

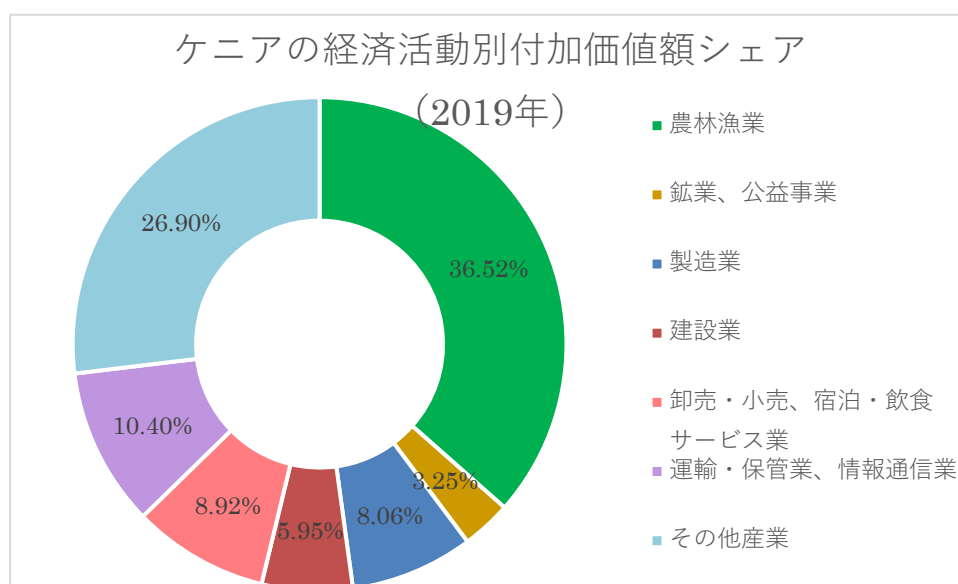


図 3.5-6 経済活動別付加価値額シェア (2019年) ⁴⁸²

表 3.5-2 ケニアの貿易相手上位国 (百万 US ドル) ⁴⁸³

2020年 商品輸入			2020年 商品輸出		
	相手国	貿易額		相手国	貿易額
1	中国	3,394	1	ウガンダ	674
2	インド	1,771	2	パキスタン	514
3	UAE	867	3	イギリス	469
4	日本	823	4	アメリカ	464
5	サウジアラビア	648	5	オランダ	458
6	インドネシア	589	6	UAE	324
7	アメリカ	531	7	タンザニア	295

⁴⁸¹ 名目 GDP、実質 GDP 成長率は IMF World Economic Outlook Database, October 2021、一人当たり名目 GNI は世界銀行 World Development Indicators

⁴⁸² 国連統計 <https://unstats.un.org/unsd/snaama/Basic>

⁴⁸³ 商品貿易額は UN Comtrade Database、サービス貿易額は WTO Statistics

8	南アフリカ	430	8	ルワンダ	237
9	マレーシア	428	9	南スーダン	217
10	エジプト	421	10	エジプト	178
	世界計	15,405		世界計	6,023
2019年 サービス輸入			2019年 サービス輸出		
	相手国	貿易額		相手国	貿易額
1	アメリカ	501	1	イギリス	677
2	イギリス	321	2	アメリカ	525
3	中国	203	3	スイス	256
4	インド	195	4	オランダ	212
5	香港	164	5	ドイツ	187
6	UAE	125	6	中国	144
7	日本	120	7	サウジアラビア	110
8	ドイツ	116	8	アイルランド	108
9	フランス	102	9	日本	107
10	オランダ	95	10	フランス	106
	世界計	3,440		世界計	4,390

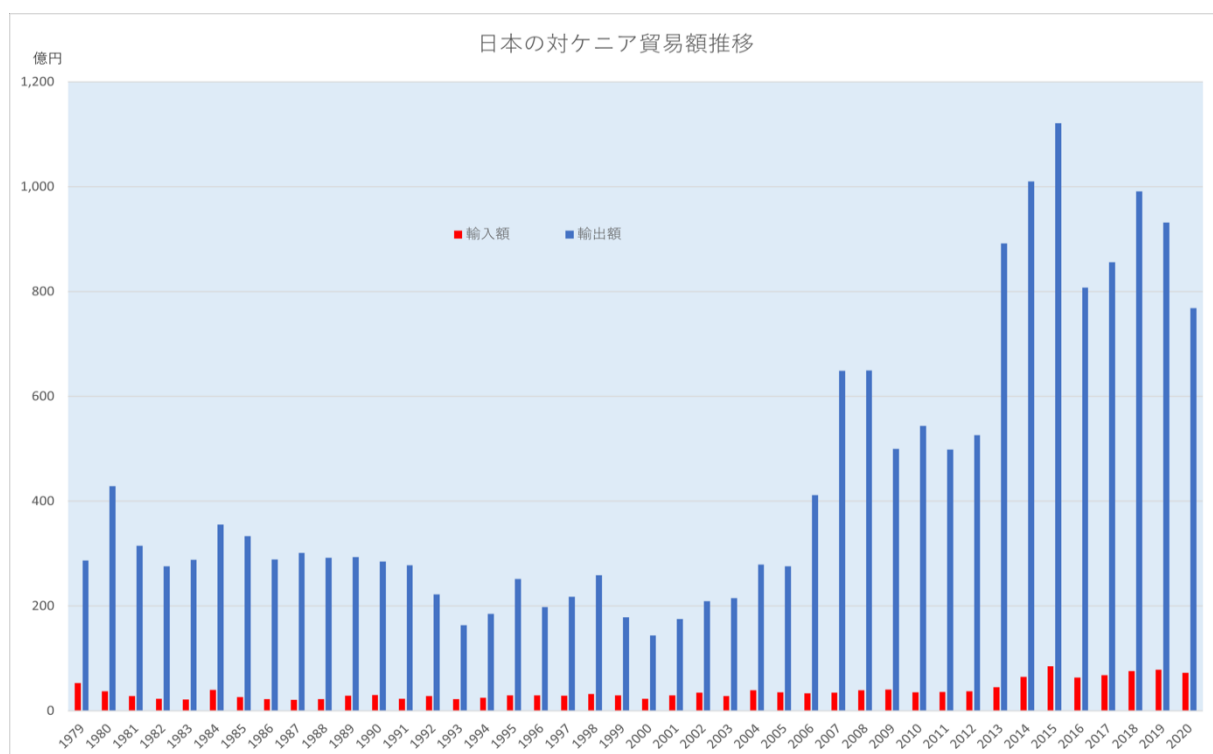


図 3.5-7 日本の対ケニア貿易額推移⁴⁸⁴

⁴⁸⁴ 財務省貿易統計

3.5.2 初等・中等・高等教育に関わる制度・状況

(1) 概況

ケニアでは、1840年代半ば以降に近代的西欧型教育が導入され、1963年の独立以降、植民地時代に導入された英国式教育システムをそのまま継続する形で7-4-2-3制度が実施されていたが、1985年からケニア独自の8-4-4制度に移行した。この改革は十分な準備がなされないまま実施されたため、現場では教員と施設不足で混乱が生じた。事態を重視した政府は、1988年 Kamunge Commission を設けて調査を開始し、調査レポートでは8-4-4制の見直しを提言したが、すでに教育は大きく政治と結びついており、教育制度の見直しは実現しなかった。その後も、8-4-4制については、1999年の Koech Commission により全面的な見直しがなされ、2000年包括的教育改革案として提言が発表された。しかし、膨大な資金を必要とする等の理由により、ケニア政府独自で実施することは不可能とされ、長らく、未改革であった。そのような中、2003年から初等教育の無償化(FPE)政策と義務教育化が、2008年から全日制中等教育無償化(FDSE)政策が実施され、初等教育における2012年の純就学率は80%、総就学率は109.42%を示す等教育の機会は拡大されてきた。一方、教育の質に関しては、従来の8-4-4制では知識の獲得に重点を置いており、暗記、試験の結果を重視し、柔軟な発想や問題解決能力が備わりにくい等の課題が指摘されてきた。このような流れから、2017年、新しい教育システムの Competency-Based Curriculum (CBC) が発表された。30年以上に渡り採られてきた8-4-4方式の教育に代わり、現在、ケニア政府が改革を進める2-6-3-3-3制は、考える力を重視し、思考型教育を志向している。しかし、移行のためのリソースが不足しており、現場には混乱も生まれている。

(2) 学校教育制度全般

i) 教育を所管する政府組織・その他機関

教育省⁴⁸⁵の教育部門には、就学前、初等、中等及び高等(大学)教育、指導主事部等があり、それぞれは、Province(県に相当)、District(郡に相当)等地方自治体に出先を設けており、初等教育を除き中央集権化されている。地方には教育委員会に相当するPEB(Provincial Education Board)、DEB(District Education Board)等が存在する⁴⁸⁶。

教育省 Ministry of Education	
所掌・権限	ケニアの持続可能な開発のため、教育、訓練、研究を提供、調整する。 主な任務として、教育政策マネジメント、幼児教育、国家試験および検定試験の管理、教育の質保証、初等・中等教育機関管理、教員教育・管理、

⁴⁸⁵ 2022年現在、ケニア教育省のHPには、教育省/ Ministry of Education と教育科学技術省 Ministry of Education, Science and Technology の表記が混在しているが、本報告書では、教育省と表記する。

⁴⁸⁶ <https://www.jica.go.jp/project/kenya/5151110E1/02/edu_02.html>20211220

	学校運営、ユネスコでのケニア代表など。
Website	https://www.education.go.ke Home (education.go.ke)
連絡先	別表にて部局ごとの連絡先について記載
ケニア国家試験委員会 Kenya National Examinations Council	
所掌・権限	<ul style="list-style-type: none"> ・試験および認証に関連する事項について政府に助言する。 ・国家試験の開発 ・試験の実施と結果の処理 ・合格者に証明書と卒業証書を授与 ・教育評価に関する研究の実施等
Website	https://www.knec.ac.ke
連絡先	Address: P.O. Box: 73598 00200, Nairobi, Kenya. Tel: +254 020 3317412 / 3317413 / 3317419 / 3317427 / 3341027 3341050 / 3341071 / 3341098 / 3341113 / 2213381 Email: info@knec.ac.ke
教師雇用委員会 Teachers Service Commission - Kenya	
所掌・権限	憲法237条2項により、委員会は以下の役割を担っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・訓練を受けた教師の登録と採用 ・教育機関への教員の配属 ・教員の昇進と異動 ・教員の懲戒管理、解雇 ・教員の養成や訓練基準の見直し ・教職に関連する事項についての政府への助言等
Website	https://www.tsc.go.ke/
連絡先	Address: P. O. BOX 196 - 50400, Busia Email: info@tsc.go.ke
ケニアカリキュラム開発研究所 The Kenya Institute of Curriculum Development (KICD)	
所掌・権限	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム開発に関連する事項について政府に助言を行う。 ・教育及び訓練に関する国内外のカリキュラムおよびカリキュラム支援教材を、国内で適用するために評価、審査、承認する。 ・基礎教育および高等教育・訓練におけるカリキュラム開発に関する政策を実施する。 ・国際基準を満たすプログラム、カリキュラム、カリキュラム支援教材を開発し、見直し、承認する等。
Website	https://kicd.ac.ke/curriculum-reform/basic-education-curriculum-framework/
連絡先	Address: Desai Rd, Off Muranga Rd, Nairobi, Kenya. Tel: +254 20 3749900-9 / 20 3749900-3 / 729 327 334 / 787 883 311

	Email: info@kicd.ac.ke
--	------------------------

教育省は、以下の部局で構成されている。

職業技術訓練局 State Department of Vocational and Technical Training	
所掌・権限	熟練した技術を持つ人材を育成するため、効果的に調整され調和したシステムを開発する。 ・技術教育の標準化の推進 ・カリキュラム開発の促進、カリキュラム実施の品質保証 ・技術・職業教育政策立案・管理 ・技術職業教育訓練等
連絡先	技術教育総局と同じ
就学前・基礎教育局 State Department of Early Learning and Basic Education	
所掌・権限	・基礎教育（幼児教育、初等教育、中等教育）の教育政策管理 ・初等・中等教育機関管理 ・学校運営とプログラムの調整、管理 ・国家試験・検定試験の管理 ・教育課程の開発 ・教育の質保証 ・ユネスコにおけるケニア代表等
連絡先	P.O Box 30040-00100 Nairobi, Kenya Jogoo House B, Harambee Avenue Tel: +254-020-3318581 Fax: +254-020-20214287 Email: info@education.go.ke
技術教育総局 Directorate of Technical Education	
連絡先	24th Floor, Teleposta Towers, Nairobi, Tel: 2242392
高等教育局 Directorate of Higher Education	
所掌・権限	・高等教育委員会/ Commission for Higher Education (CHE) その他関連機関・部局との連携による高等教育政策の策定・見直し。 ・高等教育委員会その他関連機関・部局と連携した公立大学の計画・予算に関する調整。 ・外務省との連携による、他国との文化・技術・科学協力の開始、推進、実施。 ・友好国が提供する奨学金の管理。

	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の大学教育に関する事項の調整 ・東アフリカ共同体、東アフリカ大学間協議会(IUCEA)に関する政策の共同策定と実施等。
連絡先	26th floor, Teleposta Towers, Nairobi, Tel: 2217210/1/2/4/6/9
研究科学技術局 Department of Research Science and Technology	
所掌・権限	<ul style="list-style-type: none"> ・科学、技術、イノベーションに関する国家政策を策定する。 ・政府機関による科学、技術、イノベーションのための国家政策の実施を調整・監督する。 ・科学技術とイノベーションのための人材育成に係る調整 ・ケニアの科学外交を推進する。 ・科学技術に関する国際的な公約、プログラム、プロジェクトの実施を調整する。 ・科学技術・イノベーション政策と戦略の監視・評価システムの構築等
連絡先	研究管理・開発局と同じ
研究管理・開発局 Directorate of Research Management and Development	
	Tel: 2219420 ,2218655, 310571
科学技術・イノベーション国家委員会 National Commission for Science Technology and Innovation	
連絡先	Tel: 2219420,2241349,310571/2218655

教育省の組織図については、教育省 HP にて掲載されている情報が統一されていないため、割愛する。

ii) 教育関係の政府方針及び基本計画の概要

ケニア政府は、教育について、どのような子供も取り残されないようにすることを約束している。ケニア憲法第 43 条と第 53 条は、教育を受ける権利と無償の義務教育を受ける権利について規定し、それを受けて、教育基本法はすべての子どもに無償の義務教育を受ける権利を保障している。また、教育省は、万人のための教育（EFA）目標や持続可能な開発目標（SDGs）など、教育に関連する国際的・地域的な公約の実施に向けて、各自の能力に基づいた公平な学習者中心の教育、訓練、研究を提供することを約束している。

ケニア政府は 2008 年に長期開発戦略「Vision2030」を制定し、2030 年までに産業構造を工業国化する目標を掲げている。

工業国化を実現するためには科学技術人材の育成が重要となるところ、

- ・教育セクターにおける官民パートナーの強化
- ・社会の変化に応じたカリキュラム改革
- ・教育への ICT 導入等を通じて科学技術発展の基礎となる人材育成の重要性

などに注力することとしている。

Education Strategic Plan2018-2022 (NESSP)⁴⁸⁷は、2018年から2022年における、教育セクター全体を包括する5年間の政策的優先順位、プログラム、戦略を明記した計画である。

NESSPのビジョンは「持続可能な開発のための質の高い包括的な教育、訓練及び研究」であり、「持続可能な開発のために、能力に基づく学習者を中心とした教育、トレーニング、研究を提供、促進、調整する」ことをミッションとする。

本計画は、1 教育へのアクセスと公平 2 教育の質 3 説明責任の強化を掲げている。下記は、Education Strategic Plan2018-2022で指摘されている課題である。

基礎教育における課題

- 入学した生徒の40%以上が4年生を修了できていない
- 100万人以上の子供たちが学校に通えていない(主に乾燥地帯)
- 地域や性別による格差(女兒の就学率の低さ)
- 貧富の格差による教育格差(6年生を修了する確率は、富裕層の子供で90%、貧困層の子供で60%)
- 基礎教育レベルの低さ(中等教育修了試験において大学受験の資格をクリアするのは全体の20%未満に留まっている)

高等教育(大学、職業・技術専門学校)における課題

- 女性の進学率の低さ
- インフラや設備の不足
- 理工学科目の少なさ
- 十分な資格を有する教員の不足

<生徒に影響を及ぼす現代社会の課題>

- ストライキやいじめなどの校内暴力
- アルコールやタバコ、ドラッグの蔓延
- 少女の妊娠による学校中退(15~19歳の少女の5人に1人が妊娠(2014年の報告))
- HIV/AIDS等の感染症の蔓延
- 児童労働

iii) 学校暦

通常の学校暦は、1月から12月で、3学期制を採る。1学期は1月から4月、2学期は5月から7月、3学期は9月から11月である。長期休暇は、夏休みとクリスマス休暇がある。その他、イースターホリデイがあるが、日程と期間はその年によって異なる⁴⁸⁸。

■ コロナの影響によるプラン・スケジュールの変更

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、ケニア政府は2020年7月7日、初等・中等教育の全学校について、2020年は年度末の11月まで休校にすると発表した。児童・生徒は全員留

⁴⁸⁷ <<https://www.education.go.ke/images/NESSP/NESSP-2018-2022.pdf>>20211206>

⁴⁸⁸ <<https://www.education.go.ke/index.php/about-us/background-information>>20211206

年させ、新年度が始まる来年1月から同じ学年で授業を受ける異例の決定である。この決定の背景には、感染拡大のため、政府は3月中旬から休校を指示し再開時期を模索していたが、教室での生徒間の距離は密集しており、子ども同士で1.5メートルの距離をとるのは難しい状況であること等から、一斉休校の判断に至った。日本の高校・大学入試にあたる統一試験も2020年は実施しない⁴⁸⁹。

ケニア教育省は、就学前・小・中・高等学校の2020-2023年の学校暦を下記のように告知している。改訂版学校暦では、すべての学校が2021年1月4日に再開される。

表 3.5-3 2020年2学期及び3学期

	開始	終了	期間
2学期	2021年1月4日	2021年3月19日	11週間
休暇	2021年3月20日	2021年5月9日	7週間
3学期	2021年5月10日	2021年7月16日	10週間
途中休暇	2021年6月3日	2021年6月7日	3日
休暇	2021年7月17日	2021年7月25日	1週間

通常、新学年は1月から始まるが、2020年は新型コロナの影響により、長く学校期間が封鎖していたため、上記の表にあるように2020年の2学期を2021年1月に開始した。2020年の就学に関しては、全員が留年と発表された。

表 3.5-4 2021年学校暦

	開始	終了	期間
1学期	2021年7月26日	2021年10月1日	10週間
途中休暇	2021年8月26日	2021年8月29日	3日
休暇	2021年10月2日	2021年10月10日	1週間
2学期	2021年10月11日	2021年12月23日	11週間
クリスマス休暇	2021年12月24日	2022年1月2日	10日
3学期	2022年1月3日	2022年3月4日	9週間
KCPE 初等教育修了試験	2022年3月7日	2022年3月10日	4日
KCSE 中等教育修了試験	2022年3月11日	2022年4月1日	3週間と1日
KCSE Marking	2022年4月4日	2022年4月22日	3週間

各学期間の休みを減らす形で調整を加え、下記の表によれば、2022年は4月スタート、2023年には通常通り1月スタートのスケジュールで学校が再開する予定である⁴⁹⁰。

⁴⁸⁹ <<https://www.asahi.com/articles/asn784v8bn78uhbi00w.html>>20210117

⁴⁹⁰ 2021年12月時点では、現地ケニア人によれば、2022年の1学期スタートは5月とのことである。

表 3.5-5 2022 年学校暦 2022 年 4 月 25 日開始

	開始	終了	期間
1 学期	2022 年 4 月 25 日	2022 年 7 月 1 日	10 週間
途中休暇	2022 年 5 月 26 日	2022 年 5 月 29 日	3 日
休暇	2022 年 7 月 2 日	2022 年 7 月 10 日	1 週間
2 学期	2022 年 7 月 11 日	2022 年 9 月 16 日	11 週間
途中休暇	2022 年 8 月 11 日	2022 年 8 月 14 日	3 日
休暇	2022 年 9 月 17 日	2022 年 9 月 25 日	1 週間
3 学期	2022 年 9 月 26 日	2022 年 11 月 25 日	9 週間
KCPE	2022 年 11 月 28 日	2022 年 12 月 1 日	4 日
KCSE	2022 年 12 月 1 日	2022 年 12 月 23 日	3 週間と 1 日
KCSE Marking	2023 年 1 月 2 日	2023 年 1 月 2 日	3 週間

iv) 初等教育から始まる学校制度

ケニアでは、1985 年から採られてきた初等教育 8 年、中等教育 4 年、高等教育 4 年の 8-4-4 制から、2 年間の就学前教育、6 年間の初等教育、3 年間の前期中等教育、3 年間の後期中等教育 3 年、3 年間の高等教育の 2-6-3-3-3 制への移行が段階的に進められている。

新システムでは、各自の可能性を育む教育を目指しており、2026 年までに 8-4-4 カリキュラムを完全に廃止する予定である。

表 3.5-6 ケニアの学校制度（旧制度）⁴⁹¹

年齢	学年	年数	義務教育	教育段階
6	1	8	↓	初等教育
7	2			
8	3			
9	4			
10	5			
11	6			
12	7			
13	8			
ケニア初等教育修了試験 Kenya Certificate of Primary Education(KCPE)				
14	1	4		中等教育
15	2			
16	3			
17	4			

⁴⁹¹ ケニア政府、日本政府の公表情報や聴き取り調査から未来研が作成。

中等教育修了試験 Kenya Certificate of Secondary Education (KCSE)				
18	1	4		高等教育
19	2			
20	3			
21	4			

表 3.5-7 ケニアの学校制度（新制度）⁴⁹²

年齢	学年	年数	義務教育	教育段階	
4	1	2	↓	就学前教育	
5	2				
6	1	6			初等教育
7	2				
8	3				
9	4				
10	5				
11	6				
ケニア初等教育修了試験 Kenya Certificate of Primary Education (KCPE)					
12	1	3			前期中等教育
13	2				
14	3				
15	1	3		後期中等教育	
16	2				
17	3				
中等教育修了試験 Kenya Certificate of Secondary Education (KCSE)					
18	1	3		高等教育	
19	2				
20	3				

新制度では、就学前教育も義務教育に含まれる。

⁴⁹² ケニア政府、日本政府の公表情報や聴き取り調査から未来研が作成。

v) 就学率及び生徒数と学校数

■ 就学率

下記は、2009 年における各教育段階の総純就学率である。純就学率とは、ある教育段階において就学が想定される年齢グループに属する生徒の合計を、その年齢グループに属する生徒で割ったものである。

表 3.5-8 各教育段階における総就学率(2016 年)⁴⁹³

教育段階	初等教育	中等教育	高等教育
2016 年総就学率	104.1%	66.8%	11.4%

表 3.5-9 初等教育における生徒数⁴⁹⁴

■ 生徒数 (千人)

年	2015	2016	2017	2018
男子生徒	5,127.9	5,214.5	5,293.9	5,364.3
女子生徒	4,962.9	5,054.9	5,109.8	5,178.3
合計	10,090.9	10,280.1	10,403.7	10,542.6

表 3.5-10 初等教育における学校数⁴⁹⁵

■ 学校数

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018
公立校数	21,205	21,718	22,414	22,939	23,584	24,241
私立校数	6,821	7,742	8,919	10,263	11,858	13,669
合計	28,026	29,460	31,333	33,202	35,442	37,910

表 3.5-11 中等教育における学校数⁴⁹⁶

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018
公立校数	7,686	8,297	8,592	9,111	9,111	9,643
私立校数	1,048	1,143	1,350	1,544	1,544	1,756
合計	8,734	9,440	9,942	10,655	10,655	11,399

⁴⁹³ 初等教育と中等教育の数値 教育省 Education Strategic Plan2018-2022
高等教育の数値 ユネスコ <<http://uis.unesco.org/en/country/ke>>

⁴⁹⁴ 教育省 NATIONAL EDUCATION SECTOR STRATEGIC PLAN FOR THE PERIOD 2018 - 2022

⁴⁹⁵ 教育省 NATIONAL EDUCATION SECTOR STRATEGIC PLAN FOR THE PERIOD 2018 - 2022

⁴⁹⁶ 教育省 NATIONAL EDUCATION SECTOR STRATEGIC PLAN FOR THE PERIOD 2018 - 2022

■ 教育言語

教授言語は、4年生以上の学年においては英語とされており、実際に、スワヒリ語の授業を除いて、基本的には英語が用いられている。

■ 学費

初等教育は2003年より無償化されているが、施設費等がかかるため、小学校を中退せざるを得ない児童も少なくない。

■ カリキュラム

2022年1月時点、新しい教育システムへの移行は段階的に行われており、従来の教育システムも併用されている。したがって、下記の新しいカリキュラム⁴⁹⁷についても、段階的に移行していると解される。

表 3.5-12 初等教育のカリキュラム

教育段階	カリキュラム
小学校低学年	読み書き能力 スワヒリ語/ケニア手話 英語 先住民言語 算数 環境活動 公衆衛生 宗教教育 運動・創造活動
小学校高学年	ホームサイエンス 農業 科学技術 算数 宗教教育 クリエイティブ・アート 体育・保健教育 社会学 外国語(アラビア語、フランス語、ドイツ語、北京語)

中等教育は、前期中等教育と後期中等教育の2つのレベルで構成される。ここでは、前期中等教育を紹介する。

初等教育にあたる小学校6年生を卒業した生徒は、前期中等教育機関に入学する。中等教育課程では、学習者自身の能力、個性、可能性を探求できるような幅広いカリキュラムを提供し、後期中等教育で興味のある進路に応じた科目を選択するための基礎を学ぶ。

表 3.5-13 前期中等教育のカリキュラム

科目	カリキュラム
コア科目 生徒は、12科目のコア科目を履修する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語 2. スワヒリ語、またはケニア手話 3. 数学 4. 総合科学 5. 健康教育 6. 技術系・職業系教育

⁴⁹⁷ <<https://kenyayote.com/breakdown-kenyas-new-2-6-6-3-education-curriculum-framework-subject-taught/>>

	7. 社会科教育 8. 宗教教育 選択（キリスト教/イスラム教/ヒンズー教） 9. ビジネス・スタディーズ 10. 農業 11. ライフスキル教育 12. 体育
選択科目 生徒は、個性、能力、興味、 職業選択などに応じて、選択 科目の中から最低 1 科目、最 高 2 科目を選択する。	1. ビジュアルアーツ 2. パフォーミング・アーツ 3. ホームサイエンス 4. コンピュータ・サイエンス 5. 外国語 選択（ドイツ語/フランス語/北京語/アラビア語/ ケニア手話） 7. 先住民言語

■ 試験制度

従来の教育システムでは、全児童・生徒は、初等教育 8 年の終了時に初等教育全国統一試験 /Kenya Certificate of Primary Education(KCPE)を、中等教育 4 年の終了時に中等教育全国統一試験 /Kenya Certificate of Secondary Education(KCSE)をそれぞれ受験することが義務付けられており、一定の成績に達した者のみが次の教育段階への進学が認められている。KCPE、KCSE 共に、初等教育修了や中等教育修了の合否を判定するのではなく、実態は上級学校への進学の可否を決するものであり、希望の学校へ進学するためにはかなりの高得点が必要なため、過酷な受験競争となっている⁴⁹⁸。

■ 塾

ナイロビの公文教室⁴⁹⁹は英語と算数のクラスがある。月 8 回で月謝 5,000~6,000 円である。現地駐在員の子弟やナイロビの富裕層が利用しており、中流階級にはあまりメジャーではない。

(3) 後期中等教育/高校段階

i) 概況

後期中等教育は、学齢として概ね 15 歳から 17 歳の生徒を対象とした 3 年間の教育課程で、高等教育や職業訓練に向けた基礎を学ぶ。2013 年教育法で定義された基礎教育の終了課程にあたる。後期中等教育の修了者は、国の社会経済的発展に資する「能力を備えた倫理的な市民」となることが期待される。

⁴⁹⁸ 澤村信英「受験中心主義の学校教育—ケニアの初等教育の実態—」

⁴⁹⁹ <<https://www.kumon.org/kenya/>> 現地在住山口遥氏からの聴き取り調査。

後期中等教育への進学者は、前期中等教育課程で自身の可能性、興味、個性を探究する機会を学び、希望する進路に特化した学習を始める準備ができていることが想定されている。生徒は、3つの進路のうちから自身の関心のある進路を選択し、進学する。

後期中等教育課程における3つの進路は以下の通りである。

1. 芸術とスポーツ科学
2. 社会科学
3. 科学、技術、工学、数学（STEM）

上記3つの進路の中には、さまざまなコースがある。

上述のように、2022年1月現在、ケニアの教育システムは段階的に新システムへ移行しているところであり、新しい教育システムと従来の教育システムが並存していると解される。下記に、従来のシステム下での学校種の序列に関する報告を紹介する。

小川未空 氏 大阪大学大学院博士後期課程／日本学術振興会特別研究員⁵⁰⁰

「現在の公立中等学校は、行政区ごとに学校種の序列があり、それぞれ初等教育修了試験の得点に応じた学力選抜がなされている。政府統計に基づく、最上位の約1%は、国立（national）学校と呼ばれる、いわばエリート養成を主とした男女別学の寮制校である。次位の16%を占める県立（county）学校は、所在県内から生徒を受け入れており、多くの場合、寮制を採用している。県立学校は、厳密にはさらに2種に区分されており、2010年の行政区変更以前の、州立（province）学校と、群立（district）学校から昇格されたものが含まれる。旧州立学校は、県立学校のなかでもステータスが高く、昇格された旧群立学校とは区別して特別県立（extra-county）学校と呼称されている。そして下位の66%を占めるのが、旧群立学校や、新たに設立された市立（sub-county）学校である。最後に、残りの17%が私立校である。私立校は中央政府から補助金を得ていない種別であり、設立コストの高さ等の理由から初等教育ほど多くなく、教育アクセスの普及した2000年代以降も、私立校の割合は全体の10%前後で一定している」

ii) 就学率及び生徒数と学校数

2019年にケニア教育省が発表したデータによると、ケニアには10,487のセカンダリースクールがあり、その内8,933は国公立で、1,554は私立となっている。

表 3.5-14 中等教育における学校数⁵⁰¹

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018
公立校数	7,686	8,297	8,592	9,111	9,111	9,643

⁵⁰⁰肩書きは報告当時の情報にしたがっている。報告「ケニア農村部の中等教育拡充期における学校間格差の生成—学校経営をめぐるコミュニティの影響に着目して—」から 2 ケニアにおける中等教育の拡充と学校間格差（1）中等教育拡充の過程と特徴 箇所から引用 2022年1月現在、大学院人間科学研究科 助教 <https://www.jstage.jst.go.jp/article/jids/26/2/26_113/_pdf/-char/ja>

⁵⁰¹ 教育省 NATIONAL EDUCATION SECTOR STRATEGIC PLAN FOR THE PERIOD 2018 - 2022

私立校数	1,048	1,143	1,350	1,544	1,544	1,756
合計	8,734	9,440	9,942	10,655	10,655	11,399

iii) 試験制度

ケニア中等教育修了試験/Kenya Certificate of Secondary Education(KCSE)

KCSE は、中等教育課程後に行われる試験である。この試験は、例年 11 月と 12 月に実施する。KCSE を取得した者は、高等教育機関に進学し、学位、ディプロマ等のコースを履修することができる。

iv) 優秀校

■ KCSE 2020 で優秀な成績を修めた生徒の多い高校

2020 年ケニア中等教育修了試験 (KCSE) において、A 判定の生徒が最も多かった高校は Alliance High School で、77 名の生徒が A 判定であった。A 判定の生徒は、2 位の Kapsabet High Boys High School は 65 名、3 位の Alliance Girls High School は 55 名であった⁵⁰²。

表 3.5-15 KCSE 2020 で優秀な成績を修めた生徒の多いトップ 30 校

順位	学校名	County (行政区)	A 判定の生徒数 (人)
1	Alliance High School	Kiambu	77
2	Kapsabet High Boys High School	Nandi	65
3	Alliance Girls High School	Kiambu	55
4	Kenya High School	Nairobi	53
5	Maranda High School	Siaya	48
6	Mang'u High School	Kiambu	42
7	Murang'a High School	Murang'a	30
8	MaryHill Girls	Kiambu	25
9	Light Academy	Nairobi	25
10	Maseno School	Kisumu	24
11	Nairobi School	Nairobi	22
12	Asumbi Girls High School	Homa Bay	19
13	Pangani Girls High School	Nairobi	17
14	Agoro Sare High School	Homa Bay	16
15	Kagumo High School	Nyeri	16
16	Moi Kabarak High School	Nakuru	15
17	Kamusinga High School	Bungoma	13
18	Kapsabet Girls	Nandi	13
19	Friends School Kamusinga	Bungoma	13

⁵⁰² <<https://educationnewshub.co.ke/kcse-2020-2021-top-100-schools-and-candidates/>>

20	Kisii High School	Kisii	12
21	Mbita High School	Homa Bay	10
22	Lugulu Girls	Bungoma	8
23	Lenana School	Nairobi	7
24	Moi Tea Girls	Kericho	6
25	Bunyore Girls High School	Vihiga	6
26	Kabianga High School	Kericho	6
27	Homa Bay High School	Homa Bay	5
28	Butere Girls High School	Kakamega	5
29	Chavakali High School	Vihiga	4
30	Ringa Boys High	Homa Bay	2
31	St Joseph's School Rapogi	Migori	2

■ KCSE2020 試験で全国トップ 35 の学校

KCSE2020 試験で平均点が 9 点以上であったトップ 35 校を紹介する。KCSE 2020 年の学校ランキング- 2020 年のケニア中等教育修了試験 (KCSE) において、ナンディ郡の Kapsabet Boys High School が全国で最も優秀な学校としてランクインした。同校の平均点は 10.5 である。2 位は 2019 年の総合ベスト校の Kenya High School である⁵⁰³。

表 3.5-16 KCSE2020 試験で平均点の高いトップ 35 校

順位	学校名	平均点	County (行政区)
1	Kapsabet Boys.	10.51	Nandi
2	Kenya High	10.40	Nairobi
3	Mang'u High	10.28	Kiambu
4	Alliance High	10.18	Kiambu
5	Light Academy	10.05	Nairobi
6	St JosephGirls	9.95	TransNzoia
7	Murang'aHigh	9.86	Murang'a
8	St Bridgid	9.85	Transnzoia
9	PanganiGilrs	9.84	Nairobi
10	Maranda High.	9.80	Siaya
11	StrathmoreSchool	9.78	Nairobi
12	MoiGirls Eldoret	9.68	UasinGishu
13	Friends school	9.62	Bungoma
14	Asumbi Girls	9.60	HomaBay
15	Moi Kabarak	9.56	Nakuru

⁵⁰³ <<https://educationnewshub.co.ke/kcse-2020-2021-top-100-schools-and-candidates/>>

16	Anestar Boys	9.58	Nakuru
17	Chemilil Academy	9.55	Kisumu
18	Kisima Sec	9.50	Nyandarua
19	Maseno School	9.50	Kisumu
20	Baricho High	9.48	Kirinyaga
21	Starehe Boys	9.43	Nairobi
22	Kagumo High	9.41	Nyeri
23	Nairobi School	9.41	Nairobi
24	Moi Tea Girls	9.30	Kericho
25	Riokindo Boys	9.30	Kisii
26	Kiage Tumaini	9.30	Kisii
27	Lugulu Girls.	9.30	Bungoma
28	Bishop Gatimu	9.23	Nyeri
29	Chepterit Girls.	9.20	Nandi
30	Agoro Sare	9.20	HomaBay
31	Orero Boys	9.20	Homa Bay
32	Sheikh Khalifa	9.10	Mombasa
33	Kisii School	9.10	Kisii
34	Kanga High	9.05	Migori
35	Meru School	9.03	Meru

v) 聴き取り調査

現地在住者⁵⁰⁴が推薦するケニアの優秀な高校/セカンダリースクールを下記に紹介する。

表 3.5-17 現地在住者が推薦する高校

高校	情報
Kenya High School	Kileleshwa, Nairobi County 1908 年創立の公立女子高校。寄宿制の学校で、年間約 1,200 人が在籍している。 http://www.kenyahigh.ac.ke/
Kapsabet BoysHigh School	1925 年創立の公立男子高校。2020 年は 352 人が入学。
Alliance High School	kikuyu Town, Kiambu county 1926 年創立。ケニアで最初のアフリカ人のための学校。 現在の生徒数 1,650 名。 http://alliancehighschool.sc.ke

⁵⁰⁴ 山口遙氏 東京農業大学で国際開発を学び、ケニアにて起業。

(4) 高等教育

i) 概況

Vision2030 の 2018 年から 2022 年の中期 5 カ年計画では、高等教育分野に関する取り組みとして、下記の 3 点が挙げられている。

- ・国立大学 5 校の追加開設による 2 万人の学生受入
- ・大学カリキュラムを市場ニーズにあった技術学習に整理
- ・奨学金プログラムの更なる充実

2012 年に制定された大学法(Universities Act)の下、高等教育機関には、国立大学(Public Chartered Universities)、私立大学(Private Chartered Universities)、国立短期大学(Public Constituent Colleges)、私立短期大学(Private Constituent Colleges)、暫定認定機関(Institutions with Letters of Interim Authority)の 5 種類がある。2017 年 11 月時点における高等教育機関の数は、以下のとおりである。

表 3.5-18 高等教育機関の種類と数 (2017 年 11 月時点)⁵⁰⁵

高等教育機関	機関数
国立大学	31
私立大学	18
国立短期大学	6
私立短期大学	5
暫定認定機関	14
合計	74

高等教育には 4 年の学部課程、1 年から 2 年の修士課程、3 年の博士課程のほか、ポスト中等教育機関にて提供される 2 年から 3 年のディプロマコースがある⁵⁰⁶。

ii) 入試制度

ケニアにおける高等教育の入試について、下記の報告を紹介する。

岸真由美 氏 JETRO 海外研究員⁵⁰⁷

「大学に進学するには一定の条件をクリアしなければならない。基本的にはケニア中等教育修了試験/Kenya Certificate of Secondary Education(KCSE)で平均 C+以上の成績を取る必要がある。KCSE の成績評価はマイナスとプラスを含む A～E までの 12 段階で行われる。

⁵⁰⁵ 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 一般財団法人日本国際協力センター(JICE) 「ケニア共和国人材育成奨学計画準備調査報告書」表 7

⁵⁰⁶ <<https://libopac.jica.go.jp/images/report/12092391.pdf>>

⁵⁰⁷ 肩書きは報告当時の情報にしたがっている。海外研究員レポート「ケニアの高等教育事情」2012 年 6 月 日本貿易振興機構アジア経済研究所

<https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Overseas/2012/ROR201208_001.html>

平均 B+以上の成績なら政府の学資援助を受けて国立大学に入学できる。これは「正規課程」(regular programme)あるいは「第1群」と言われ、政府が学費の7割を負担してくれる。選抜は国立大学から成る入学者選抜委員会(JAB: Joint Admission Board)が行う。しかし、正規課程の受け入れ枠は大学入学者数よりもとても小さい。2009年の大学入学者177,735人のうち、国立大学入学者が142,556人(約80.2%)、私立大学入学者が35,179人(約19.8%)。B+以上の成績で政府の学資援助を受けて正規課程に入学した学生は、2009年は21,100人で、国立大学進学者の約14.7%にすぎない。ではC+からBの成績だった大学進学希望者はどうするか。国立大学の「平行課程」(parallel degree programme)あるいは「第2群」(Module II)と言われる自費入学枠に進むか、私立大学に進むかである。実際、国立大学入学者の約85%を占めるのは平行課程で学ぶ学生である。しかし平行課程の学費は正規課程に比べるとかなり高額となる。

最後に、KCSEの成績が平均C以下の場合そもそも大学進学への機会は閉ざされてしまうのだろうか。実は、高等専門学校(カレッジやその他の専門学校)の課程を修了し、ディプロマ(准学士号)やサーティフィケート(修了証書)を取得すれば大学に進学できる。多くの高等専門学校や大学において、こうした課程が提供されている」

iii) 大学・大学院進学率

表 3.5-19 高等教育への総就学率⁵⁰⁸ (%)

年	2015	2016	2017
進学率	9.2	11.4	11.5

iv) 優秀大学

世界ランキング

高等教育機関を評価する指標は様々な要素があるところ、ここでは、世界大学ランキングにおけるケニアの大学のランキングを紹介する。

QS2022 世界ランキング

QS2022 世界ランキングは、イギリスの大学評価機関であるクアクアレリ・シモンズ社 / Quacquarelli Symonds (QS)が毎年9月に公表している世界の大学のランキングの2022年版である⁵⁰⁹。

総合ランキングに University of Nairobi がランクインしている⁵¹⁰。

⁵⁰⁸ 世界銀行教育統計<<https://databank.worldbank.org/source/education-statistics-%5e-all-indicators#>>

⁵⁰⁹ <<https://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2022>>20211018

⁵¹⁰ <<https://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2022>>20211124

表 3.5-20 QS2022 世界ランキング

順位	大学名	総合点	学術的 評価	企業の 評価	教員の 学生比 率	教員一 人当た りの論 文数	国際的 な教員 比率	国際的 な学生 比率
1001- 1200	University of Nairobi	—	4.2	3.5	18.7	1.9	1.3	3.1

THE2022 世界ランキング

THE2022 世界ランキングは、イギリスの高等教育専門週刊誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション/ The Times Higher Education」が 2004 年から毎年秋に公表している世界大学ランキングの 2022 年版である⁵¹¹。

表 3.5-21 THE2022 世界ランキング

順位	大学名	総合点	教育力	研究力	被引用 論文数	産業界 からの 収入	国際性
501- 600	University of Nairobi	38.1- 40.8	14.1	8	96.7	34.8	47.1

表 3.5-22 clinical and health 分野ランキング

順位	大学名	Overall	Citations	Industry Income	Internati onal Outlook	Teaching	Research
201- 250	University of Nairobi	41.5- 43.5	88.8	41.6	49.5	8.4	14.3

表 3.5-23 life sciences 分野ランキング

順位	大学名	Overall	Citations	Industry Income	Internati onal Outlook	Teaching	Research
801+	University of Nairobi	8.3- 19.1	19.6	27.8	45.5	6.8	11

⁵¹¹ <https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2022/world-ranking#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/stats>

表 3.5-24 physical sciences 分野ランキング

順位	大学名	Overall	Citations	Industry Income	International Outlook	Teaching	Research
1001+	University of Nairobi	7.8–17.7	18.4	33.9	43.6	4.9	10.6

v) 聴き取り調査

山口遥氏 ケニア在住

国内では、ナイロビ大学が優秀大学と評価されている。続いて、ジョモ・ケニヤッタ農工大学が評価の高い大学である。ナイロビ大学はケニアの東大というイメージだ。ケニアでは、学歴で仕事や給与が大きく変わるので、熾烈な受験競争だと言われている。進路として、医学、工学、薬学などの理系の人気が高い。

私の周りでは、大学への進学率は中流階級でも高いとは言えない。友人のケニア人は、成人後自分で稼いだお金で College(専門学校)に通い、会計やビジネスの勉強をしている方が多くいる。

vi) 海外の高等教育機関への留学生数及び主要な留学先

ケニアからの留学生数は、2015年から2019年にかけて、13,579人から16,170人と緩やかに増加している。

表 3.5-25 海外の高等教育機関への留学生数（人）

年	2015	2016	2017	2018	2019
留学生数	13,579	13,883	14,917	15,753	16,170

下記は、2019年のケニアからの留学先国である。上記の通り、2019年の留学生は16,170人である。留学先国が不明なケースはその他に含めている。

表 3.5-26 2019年における留学先国と留学生数（人）

留学先国	留学生数	留学先国	留学生数	留学先国	留学生数
United States	3,609	Italy	110	Greece	18
Australia	3,091	Sweden	101	Czechia	15
United Kingdom	2,266	Netherlands	82	Cyprus	14
Canada	1,020	Poland	78	Malta	13
South Africa	996	Slovakia	78	Serbia	12
Malaysia	547	New Zealand	76	Oman	10
Turkey	464	Belgium	68	Romania	10

Germany	434	Denmark	67	Iceland	8
India	413	Spain	63	Bahrain	7
Saudi Arabia	247	Norway	60	Colombia	7
Finland	191	Switzerland	55	Hong Kong	7
Hungary	184	Ghana	54	Iran	7
Mauritius	183	Austria	53	Viet Nam	7
Japan	178	Morocco	37	Estonia	6
Rwanda	162	Ireland	31	Cuba	5
France	154	Namibia	27	Luxembourg	5
Korea	152	Qatar	22	Portugal	5
Russian	121	Thailand	22	その他	252
Ukraine	116	Brazil	20		
Botswana	110	Grenada	20	合計	16,170

vii) 日本の高等教育機関への留学生数及び主要な留学先
ケニアからの留学生に係る情報について、以下に紹介する⁵¹²。

表 3.5-27 2020 年度外国人留学生在籍状況調査国別・国費私費別内訳（人）

国地域	合計	国費	私費
ケニア	133	40	93

表 3.5-28 2020 年度外国人留学生在籍状況調査国別・在学段階別内訳（人）

国地域	合計	博士	修士	専門 職	大学 院非 正規	学部	短大	高専	専修	準備	日本語
ケニア	133	55	27	2	7	35	0	0	5	0	2

表 3.5-29 2020 年度ケニア留学生の主な大学別在籍状況

非公開情報を含むため非掲載とする。

⁵¹² 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)「留学生調査」の結果による。2020 年度、2019 年度ともに、5 月 1 日現在の調査である。

表 3.5-30 2020 年度外国人留学生在籍状況調査国別・男女別内訳（人）

国	合計	女	男
ケニア	133	48	85

表 3.5-31 2020 年度外国人留学生在籍状況調査国別・専攻区分別内訳（人）

国	合計	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	家政	教育	芸術	その他
ケニア	133	8	27	2	34	22	14	0	3	1	22

表 3.5-32 2019 年度短期教育プログラムによる外国人学生受入れ状況（プログラム期間別・国別）（人）

国地域	合計	2 週間未満	2 週間以上 1 か月未満	1 か月以上 3 か月未満	3 か月以上 6 か月未満
ケニア	2	0	0	2	0

表 3.5-33 2019 年度短期教育プログラムによる外国人学生受入れ状況（協定等制度別・国別）（人）

国地域	合計	協定等制度によらない受入れ	協定等制度による受入れ
ケニア	2	0	2

表 3.5-34 2019 年度短期教育プログラムによる外国人学生受入れ状況（専攻分野別・国別）（人）

国	合計	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	家政	教育	芸術	その他
ケニア	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0

表 3.5-35 2019 年度外国人留学生進路状況調査結果（国別）（人）

国・地域	日本国内			母国			その他の国			小計	不明	合計
	就職	進学	他	就職	進学	他	就職	進学	他			
ケニア	11	6	8	20	3	10	1	0	0	59	7	66

表 3.5-36 2019 年度外国人留学生進路状況調査結果（国、在籍区分別）（人）

国・地域	日本国内			母国			その他の国			小計	不明	合計
	就職	進学	他	就職	進学	他	就職	進学	他			
博士	4	0	4	11	0	3	1	0	0	23	3	26
修士	3	4	4	7	1	7	0	0	0	26	3	29
専門職 (法科大学院以外)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
学部	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	1	6
専修	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	0	3
日本語	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1

viii) 日本の大学との交流協定状況

表 3.5-37 ケニア・日本の大学間学術・学生交流協定⁵¹³（2019 年日本文部科学省調査結果）

日本の大学	ケニアの大学	協定名
東北大学	KCA 大学経営・公共管理学院	a : 包括的な協定【付属あり】
東北大学	KCA 大学経営・公共管理学院	c : 個別的な協定
秋田大学	ケニヤッタ大学	Memorandum of Understanding on Academic Cooperation
秋田大学	ケニヤッタ大学	Agreement on Student Exchange
山形大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	a : 包括的な協定【付属あり】
山形大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	c : 個別的な協定
宇都宮大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学農学部	b : 包括的な協定【単体】
千葉大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	a : 包括的な協定【付属あり】
千葉大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	c : 個別的な協定
東京大学	ナイロビ大学	b : 包括的な協定【単体】
東京大学	ナイロビ大学	a : 包括的な協定【付属あり】
東京大学	ナイロビ大学	c : 個別的な協定
横浜国立大学	ナイロビ大学	c : 個別的な協定
金沢大学	ケニア中央医学研究所	a : 包括的な協定【付属あり】
金沢大学	ケニア中央医学研究所	c : 個別的な協定
金沢大学	ナイロビ大学	a : 包括的な協定【付属あり】
金沢大学	ナイロビ大学	c : 個別的な協定

⁵¹³ 海外の大学との大学間交流協定、海外における拠点に関する調査結果、日本文部科学省、令和 3 年 10 月 26 日改訂、https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/1287263.htm, 2022 年 1 月 1 日取得

岐阜大学	ディアンキマティ工学大学工学部	c : 個別的な協定
名古屋大学	ナイロビ大学	a : 包括的な協定【付属あり】
名古屋大学	ナイロビ大学	c : 個別的な協定
名古屋大学	アフリカ人造り拠点研究所	b : 包括的な協定【単体】
滋賀医科大学	ナイロビ大学	b : 包括的な協定【単体】
鳥取大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	a : 包括的な協定【付属あり】
鳥取大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	c : 個別的な協定
岡山大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	a : 包括的な協定【付属あり】
岡山大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	c : 個別的な協定
岡山大学	国際畜産研究所	b : 包括的な協定【単体】
広島大学	ケニヤッタ大学	b : 包括的な協定【単体】
山口大学	ナイロビ大学獣医学部	b : 包括的な協定【単体】
長崎大学	ケニヤッタ大学	
長崎大学	ケニヤッタ大学	
長崎大学	ナイロビ大学	
長崎大学	マセノ大学	
熊本大学	プワニ大学	c : 個別的な協定
大分大学	ケニア医学研究所	a : 包括的な協定【付属あり】
大分大学	ケニア医学研究所	c : 個別的な協定
奈良先端科学技術大学院大学	ナイロビ大学	a : 包括的な協定【付属あり】
奈良先端科学技術大学院大学	ナイロビ大学	c : 個別的な協定
大阪市立大学	マウントケニア大学	c : 個別的な協定
大阪府立大学	モンバサ工科大学	b : 包括的な協定【単体】
足利大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	a : 包括的な協定【付属あり】
創価大学	ナイロビ大学	b : 包括的な協定【単体】
創価大学	アメリカ国際大学	b : 包括的な協定【単体】
東洋大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	b : 包括的な協定【単体】
法政大学	カラティナ大学	b : 包括的な協定【単体】
東海大学	ナイロビ大学	b : 包括的な協定【単体】
山梨学院大学	アメリカ国際大学アフリカ校	c : 個別的な協定
同志社大学	ストラスモア大学	b : 包括的な協定【単体】
立命館大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学	b : 包括的な協定【単体】

関西外国語大学	ユナイテッドステイツ国際大学アフリカ	c : 個別的な協定
福岡大学	ジョモ・ケニヤッタ農業工業大学	b : 包括的な協定【単体】
立命館アジア太平洋大学	ユナイテッド・ステーツ・インターナショナル大学アフリカ	c : 個別的な協定

3.5.3 科学技術・研究開発に関わる制度・状況

(1) 科学技術イノベーションを所管する政府組織

国の科学技術・イノベーション分野の行政をまとめているのは教育省（MoE）で、同省の研究科学技術局（DRST）が科学技術開発研究分野を担当している。またケニア国家イノベーション庁（KeNIA）は国のイノベーション・システム（NSI）を発展させ整備する役割をもち、NSI の進捗管理も行なっている。さらに産業化・貿易・企業開発省、情報通信技術省、農業畜産漁業省、運輸・インフラ・住宅・都市開発・公共事業省、保健省など他の省も、それぞれが管轄する分野の研究について教育省およびその研究分野に関連する省と協力、調整し、研究実施を進めている⁵¹⁴。

これら所管の省や政府が科学技術・イノベーション分野の政策を決定するための諮問機関として国家科学技術イノベーション委員会（NACOSTI）がある。また NACOSTI は政府に国の科学技術・イノベーション分野についてアドバイスをを行うだけでなく、同分野の規制と質の保証のために活動している。

研究の資金配分を担当する主な機関は国家研究ファンド（NRF）となっている。

国家科学技術イノベーション委員会（NACOSTI）、ケニア国家イノベーション庁（KeNIA）、国家研究ファンド（NRF）の3つの機関は、2013年の科学技術・イノベーション法⁵¹⁵によって設立が決定された。政府はこの分野の体制を見直した際に諮問、研究の発展・推進、管理、ファンディングなど全ての役割を担当する1つの機関を発足させるのではなく、これら3機関に役割を分担して設立する形にした。それぞれの役割、責任範囲を明確にし、戦略的機関として稼働させることを狙ったためである。⁵¹⁶

以下に担当省、諮問機関、科学技術・イノベーション分野の研究資金配分機関の名称とホームページアドレス、連絡先をあげる。また、科学技術・イノベーション分野を統括している教育省以外の省については、この分野への関わりの例として国家研究優先課題 2018 – 2022⁵¹⁷で教育省とともに研究の実施を進める課題項目を付記しておく。

⁵¹⁴ NACOSTI : NATIONAL RESEARCH PRIORITIES 2018 – 2022、African Centre for Technology Studies (ACTS).

<https://www.acts-net.org/news/science-technology-and-innovation-sti-in-kenya-insights-from-stakeholder-workshop>

⁵¹⁵ ST&I Act of 2013

⁵¹⁶ NACOSTI : Assessing the Potential for Transformative Innovation Policy in Kenya, <https://www.tipconsortium.net/wp-content/uploads/2019/07/Kenya-5-pager.pdf>

⁵¹⁷ NATIONAL RESEARCH PRIORITIES 2018 – 2022

表 3.5-38：ケニア科学技術・イノベーション分野所管組織⁵¹⁸

担当組織	HP・コンタクト等
科学技術・イノベーション行政担当省	
教育省 (MoE) Ministry of Education	HP : https://demo.education.go.ke Tel +254(0) 3318581 Email : info@education.go.ke
教育省研究科学技術局 (DRST) Directorate of Research, Science and Technology (DRST)	HP : https://demo.education.go.ke/research-science-and-technology-drst/
ケニア国家イノベーション庁 (KeNIA) Kenya National Innovation Agency	https://www.innovationagency.go.ke Tel : +254-792 446 976 Email : info@innovationagency.go.ke
産業化・貿易・企業開発省 Ministry of Industrialization and Enterprise Development 優先研究担当課題：製造分野	HP : https://www.industrialization.go.ke Tel : +254 20-2731531 Email : ps@industrialization.go.ke , cs@industrialization.go.ke
情報通信技術省 (または ICT 省) Ministry of Information, Communication and Technology	HP : https://ict.go.ke Tel : (+254) 020 4920000 / 1 Email : info@information.go.ke
農業畜産漁業省 Ministry of Agriculture, Livestock and Fisheries 優先研究担当課題：食糧・栄養の安全	HP : https://kilimo.go.ke Tel : +254-20-2718870 Email : info@kilimo.go.ke
運輸・インフラ・住宅・都市開発・公共事業省 Ministry of Transport, Infrastructure Housing, Urban Development and Public Works 優先研究担当課題：十分な住宅	HP: https://www.transport.go.ke/index.php Tel : +254-020-2729200 Email : info@transport.go.ke
保健省 Ministry of Health 優先研究担当課題：国民全体の健康	HP : https://www.health.go.ke/home/ Tel : +254-20-2717077 Email : ps@health.go.ke
政策諮問機関	
国家科学技術イノベーション委員会 (NACOSTI) National Commission for Science, Technology and Innovation	HP : https://www.nacosti.go.ke Tel : 0204007000 E-mail : info@nacosti.go.ke
資金配分機関	
国家研究ファンド (NRF) National Research Fund	HP : https://researchfund.go.ke TEL : +254 20-4403386 Email : https://researchfund.go.ke/contact-us/ より

⁵¹⁸ 主なソース：ケニア政府 <https://www.gov.za/about-sa/science-technology#bodies>、科学イノベーション省 Annual Report 2020-2021 Financial Year, White Paper on Science, Technology and Innovation 2019、NATIONAL RESEARCH PRIORITIES 2018 – 2022

(2) 科学技術・研究開発に係る政府方針及び基本計画の概要

i) ケニア Vision 2030 とその中期計画 (MTP⁵¹⁹)

ケニア Vision 2030 は 2008 年に発表された国家政策で、2030 年までに全国民に高い生活水準を提供できる中所得国家に変革させるという目標を掲げている。そしてケニア Vision 2030 は「経済」、「社会」、「政治」の分野の改革を大きな柱としている。日本のアフリカ研究専門学術誌には「この Vision 2030 は、科学技術・イノベーション (STI) をマクロ経済安定等と並ぶ重要事項として捉えており、STI はあらゆるレベルで社会経済開発を支えると位置づけている。同文書は、繰り返し STI の重要性に言及しており、ケニア政府の科学技術重視の姿勢を示している⁵²⁰」と分析記述がなされている。

その Vision 2030 の実現のためケニア政府は 5 年ごとの中期計画 (MTP) を策定した。MTP1 が 2008-2012 年、MTP2 が 2013-2017 年、そして現在が 3 期目の MTP3 2018-2022 となっている。この MTP には Vision 2030 で挙げられた「経済」、「社会」、「政治」の柱となる改革分野とは別に、「変革を可能にするもの」という柱が設けられており⁵²¹、科学技術・イノベーションはこの「変革を可能にするもの」の柱の強化セクターの 1 つに挙げられている。また情報通信技術 (ICT) も同様に強化セクターの 1 つに挙げられている。参考のため以下に MTP3 2018-2022 で「変革を可能にするもの」の柱に挙げられた 9 つの強化セクターを示す。

MTP3 2018-2022 で「変革を可能にするもの」の柱に挙げられた強化セクター

- インフラ
- 情報通信技術 (ICT)
- 科学技術・イノベーション
- 土地改革
- 公共セクターの改革
- 労働・雇用
- 国家の価値、倫理
- 干ばつ非常事態を終わらせる
- 安全保障、平和構築・紛争解決

⁵¹⁹ MEDIUM TERM PLAN

⁵²⁰ 引用：アフリカ教育研究 第 3 号 (2012) 83-97 頁アフリカにおける科学技術発展に向けた高等教育機関の役割と課題—ケニアを事例として—中田志郎 (神戸大学大学院国際協力研究科) 田中紳一郎 (株式会社パデコ)

⁵²¹ MTP1、MTP2 : <http://vision2030.go.ke/wp-content/uploads/2018/09/Kenya-Vision-2030-Sector-Progress-Project-Updates-June-2018.pdf>

MTP3 : <http://vision2030.go.ke/wp-content/uploads/2019/01/THIRD-MEDIUM-TERM-PLAN-2018-2022.pdf> いずれもケニア政府

また、MTP3 2018-2022 のエグゼクティブ・サマリーは「変革を可能にするもの」の柱の中の ICT セクターおよび科学技術・イノベーションセクターについて、以下のような推進・強化を狙う項目を挙げている⁵²²。

MTP3 2018-2022 での ICT セクターの推進・強化項目

- 国土内の光ファイバー網拡張
- デジタル政府、E-ガバメント・サービスの強化
- サイバー・セキュリティの推進
- 必要な政策、法、規制、組織の枠組みを構築

MTP3 2018-2022 での科学技術・イノベーションセクターの推進・強化項目

- 科学・技術・工学・数学（STEM）教育プログラムの実施
- 国立科学技術・イノベーションパーク群の設立
- 研究開発費の GDP 比率を 2% まで引き上げる
- 2022 年までにグローバル競争力インデックスで 137 カ国中 85 位に入る

ii) 科学技術・イノベーション政策・戦略（2008 年）⁵²³とその後の優先課題

2008 年、国家全体の開発計画である Vision 2030 の策定に応じて、科学技術・イノベーション分野でも Vision 2030 の実現に貢献するための政策・戦略が策定された。それが科学技術・イノベーション政策・戦略（2008 年）である。ここでは、科学技術・イノベーション分野が Vision 2030 の目標達成に貢献できる分野として、農業、農村開発、保健、生命科学、貿易・産業、人材開発・育成、インフラ、エネルギー、環境・天然資源マネジメント、ICT の分野が挙げられている。

その 2008 年の科学技術・イノベーション政策・戦略は Vision 2030 の実現のための中期計画の進捗により見直され、現時点では、国家研究優先課題 2018 - 2022⁵²⁴が打ち出されている。

そして、この国家研究優先課題 2018 - 2022 で挙げられている優先課題は、国連の持続可能な開発目標への国のコミットメント、アフリカ科学技術・イノベーション戦略（STISA）2024 で掲げられている優勢課題、アフリカ開発アジェンダ 2063 の目標にも沿う形で設定されている。

国家研究優先課題 2018 - 2022 における科学技術・イノベーション分野の研究開発注力項目

- 食糧・栄養の安全
- 十分な住宅
- 製造
- 国民全体の健康

⁵²² ケニア政府 MTP3 : <http://vision2030.go.ke/wp-content/uploads/2019/01/THIRD-MEDIUM-TERM-PLAN-2018-2022.pdf>

⁵²³ SCIENCE, TECHNOLOGY AND INNOVATION POLICY AND STRATEGY 2008 ケニア科学技術省（当時）

⁵²⁴ NATIONAL RESEARCH PRIORITIES 2018 - 2022

■ 学術研究開発

(3) 研究機関

以下にケニアの研究実施機関のリストを表にあげる。これらは国家科学技術イノベーション委員会（NACOSTI）に登録されている研究機関である。「NI 国内ランク」とは、Nature Index のケニア国内ランキングに入っている研究機関のそれぞれの順位である。Nature Index のランク付けの条件、点数等詳細については、後述の「(5)研究開発活動の特徴」を参照いただきたい。

表 3.5-39：ケニアの研究機関リスト⁵²⁵

研究所	運営	Nature Index 国内ランク
ケニア林業研究所（KEFRI） Kenya Forestry Research Institute	公立	
ケニア海洋・漁業研究所（KMFRI） Kenya Marine and Fisheries Research Institute	公立	
ケニア国立博物館（NMK） National Museums of Kenya	公立	2
英国研究所東アフリカ（BIEA） British Institute in Eastern Africa	国際	
ケニア医学研究所（KEMRI） Kenya Medical Research Institute	公立	3
ケニア産業研究開発研究所（KIRDI） Kenya Industrial Research and Development Institute	公立	18
国際昆虫生理学・生態センター（ICIPE） International Centre for Insect Physiology and Ecology	国際	4
ケニア水研究所（KEWI） Kenya Water Institute	公立	
ナイロビ病院 The Nairobi Hospital	民間	
国際農林業研究センター（ICRAF） International Centre for Research in Agroforestry	国際	21
国際畜産研究所（ILRI） International Livestock Research Institute	国際	1
エリザベス・グレイザー小児エイズ基金 Elizabeth Glaser Pediatric and AIDS Foundation	国際	
霊長類研究所 Institute of Primate Research	公立	

⁵²⁵ 国家科学技術イノベーション委員会（NACOSTI）登録研究機関 <https://www.nacosti.go.ke/wp-content/uploads/2021/Docs/REGISTERED%20RESEARCH%20INSTITUTION%20APRIL%202021.pdf>

エネルギー調査研究所 Institute of Energy Studies and Research	公立	
トゥルカナ盆地研究所 Turkana Basin Institute	民間	
国際農業バイオ科学センター CAB International	国際	
生物多様性インターナショナル Bioversity International	国際	
アフリカ人口健康研究センター (APHRC) African Population and Health Research Centre	国際	11
ンバラ研究センター (MRCC) Mpala Research Centre	民間	10
国際ポテトセンター (CIP) International Potato Centre	国際	
トレンディ・コンサルティング国際社 Trendy Consulting International Limited	民間	
ケニア宇宙機関 (KNSA) Kenya Space Agency	公立	
ケニア科学アカデミー (KNAS) Kenya National Academy of Sciences	公立	

(4) 研究者

i) 研究者数概要

下記は、2010年におけるケニアの研究者数と研究者数の部門別比率である。高等教育機関で研究を行う研究者が6割を超え、圧倒的に多い。

表 3.5-40：研究者数（人）

研究者数	企業部門	政府部門	高等教育部門	民間非営利部門	合計	人口100万人当たり研究者数
部門別研究者数	1,062	1,883	5,647	713	9,305	221
部門別比率	11.4%	20.2%	60.7%	7.7%	100%	

ii) 分野別トップ研究者リスト⁵²⁶

以下に分野別のトップ研究者のリストをあげる。

表 3.5-41 2016~2020年分野別トップ研究者リスト（複数表）

Agricultural Sciences 分野

⁵²⁶ 出典：クラリベイトアナリティクス

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Kimatu, Benard Muinde	Egerton University	14	374	12
1	van Wijk, Mark T.	International Livestock Research Institute (ILRI)	19	458	12
3	Thornton, Philip	International Livestock Research Institute (ILRI)	13	481	11
4	Torto, Baldwyn	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	17	203	9
4	Shepherd, Keith D.	World Agroforestry (ICRAF)	13	229	9
4	Merbold, Lutz	International Livestock Research Institute (ILRI)	20	266	9
4	Winowiecki, Leigh A.	World Agroforestry (ICRAF)	12	855	9
4	Ekesi, Sunday	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	20	260	9

Biology & Biochemistry 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Wandera, Simon M.	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	6	155	6
2	Bett, Bernard	International Livestock Research Institute (ILRI)	4	74	4
3	Sang, Rosemary	Kenya Medical Research Institute	3	44	3
3	Hiroyoshi, Satoshi	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	3	16	3
3	Ngotho, Maina	Mount Kenya University	4	244	3
3	Kagira, John Maina	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	4	34	3

Chemistry 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Arowo, Moses	Moi University	15	151	7
2	Jaganyi, Deogratius	Mount Kenya University	29	131	6
3	Kibet, Joshua K.	Egerton University	6	30	4

3	Madivoli, Edwin Shigwenya	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	4	28	4
3	Rop, Ronald K.	Egerton University	7	34	4
3	Matasyoh, Josphat	Egerton University	6	40	4
3	Noah, Naumih	United States International University Africa	5	82	4
3	Birech, Zephania	University of Nairobi	7	31	4

Clinical Medicine 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Abajobir, Amanuel	African Population & Health Research Centre	27	16,998	19
2	Kariuki, Simon	Kenya Medical Research Institute	34	483	13
2	ESAMAI, FABIAN	Moi University	29	516	13
2	Maitland, Kathryn	Kenya Medical Research Institute	39	2,648	13
5	Onywera, Vincent O.	Kenyatta University	19	438	12
5	Mturi, Neema	Kenya Medical Research Institute	21	358	12

Computer Science 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Shepherd, Keith D.	World Agroforestry (ICRAF)	2	16	2
1	Kindt, Roeland	World Agroforestry (ICRAF)	2	56	2
3	多数		1		1

Economics & Business 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Kassie, Menale	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	10	403	9
2	Jensen, Nathan	International Livestock Research Institute (ILRI)	9	185	5
3	Diirro, Gracious M.	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	4	66	4
3	Kramer, Berber	International Livestock Research Institute (ILRI)	4	34	4

5	Muriithi, Beatrice	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	3	62	3
5	Shimeles, Abebe	African Economic Research Consortium (AERC)	5	55	3
5	Fisher, Monica	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	3	22	3

Engineering 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Wanjiru, Evan M.	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	7	145	7
2	Arowo, Moses	Moi University	7	127	6
2	Wandera, Simon M.	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	6	163	6
4	Njenga, Mary	World Agroforestry (ICRAF)	5	58	4
4	Odongo, N. E.	Pwani University	4	61	4
4	Adenya, Christiaan Adika	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	5	51	4
4	Wekesa, David	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	4	78	4

Environment_Ecology 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Brooks, Thomas M.	World Agroforestry (ICRAF)	30	878	17
2	Lohbeck, Madelon	World Agroforestry (ICRAF)	14	1,407	12
3	Kinyua, J.	Kenya Medical Research Institute	12	613	11
4	Merbold, Lutz	International Livestock Research Institute (ILRI)	19	586	10
5	Thornton, Philip	International Livestock Research Institute (ILRI)	10	591	8

Geosciences 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Kianji, G.	University of Nairobi	9	277	8
2	Landmann, Tobias	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	12	103	7

3	Olago, Daniel	University of Nairobi	8	106	6
4	Thorne, Peter	International Livestock Research Institute (ILRI)	6	109	5
4	Abdel-Rahman, Elfatih M.	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	6	59	5

Immunology 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Ngure, Kenneth	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	27	428	13
2	Kinuthia, John	Kenyatta National Hospital	39	422	12
3	Fevre, Eric Maurice	International Livestock Research Institute (ILRI)	16	326	10
3	Awori, Juliet O.	Kenya Medical Research Institute	13	282	10
3	Anzala, Omu	University of Nairobi	20	275	10
3	Kimani, Joshua	University of Nairobi	25	337	10

Materials Science 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Amolo, George O.	Technical University of Kenya	5	44	4
2	Mwasiagi, Josphat Igadwa	Moi University	8	55	3
2	Barasa, Godfrey Okumu	Jaramogi Oginga Odinga University of Science & Technology	6	30	3
4	Oduor, Edison Omollo	Technical University of Kenya	3	20	2
4	Mwabora, Julius	University of Nairobi	5	24	2
4	Mohamed, Shukri M.	African Population & Health Research Centre	2	9	2
4	Mpofu, Nonsikelelo Sheron	Moi University	2	19	2
4	Otieno, Stephen	Maseno University	2	13	2
4	odhiambo, sheilla	Moi University	2	12	2

Mathematics 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Luboobi, Livingstone	Strathmore University	5	8	2
1	Bonyo, J. O.	Maseno University	4	8	2
1	Koske, Joseph	Moi University	2	10	2
1	Malonza, David M.	Kenyatta University	2	40	2
1	Otieno, Gabriel	United States International University Africa	2	10	2

Microbiology 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Njenga, Sammy M.	Kenya Medical Research Institute	10	212	8
1	Githaka, Naftaly	International Livestock Research Institute (ILRI)	15	126	8
3	Sang, Rosemary	Kenya Medical Research Institute	13	132	7
4	Tchouassi, David P.	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	9	90	6
4	Mwaura, S.	International Livestock Research Institute (ILRI)	7	85	6
4	Odongo, David O.	University of Nairobi	11	84	6

Molecular Biology & Genetics 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Dessie, T.	International Livestock Research Institute (ILRI)	13	289	9
2	Mwai, Okeyo Ally	International Livestock Research Institute (ILRI)	9	221	7
3	Gemenet, Dorcus C.	World Agroforestry (ICRAF)	6	80	4
4	Makanya, Andrew N.	University of Nairobi	4	40	3
4	Muthemba, Samuel	World Agroforestry (ICRAF)	3	16	3
4	Muchugi, Alice	World Agroforestry (ICRAF)	4	43	3
4	Hendre, Prasad	World Agroforestry (ICRAF)	3	16	3
4	Kariba, Robert	World Agroforestry (ICRAF)	3	16	3
4	Ogugo, Veronica	World Agroforestry (ICRAF)	3	25	3
4	Onyango, Arnold N.	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	4	59	3

Multidisciplinary 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	多数		1		1

Neuroscience & Behavior 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Smith Dumont, Emilie	World Agroforestry (ICRAF)	3	27	3
2	Ogeng'o, Julius	University of Nairobi	2	30	2
2	Arika, Wycliffe	Kenyatta University	2	10	2
2	Kumar, Manasi	University of Nairobi	2	861	2
2	Abajobir, Amanuel	African Population & Health Research Centre	2	821	2
2	Kibiti, Cromwell	Technical University of Mombasa	2	10	2
2	Kinyua, J.	Kenya Medical Research Institute	2	73	2
2	Ngugi, Mathew Piero	Kenyatta University	2	10	2
2	John, Chandy C.	Kenya Medical Research Institute	2	27	2

Pharmacology & Toxicology 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Okoth, Sheila	University of Nairobi	11	128	7
1	Midiwo, Jacob Ogweno	University of Nairobi	13	144	7
3	Irungu, Beatrice	Kenya Medical Research Institute	5	64	5
3	Matasyoh, Josphat	Egerton University	6	84	5
5	Derese, Solomon	University of Nairobi	4	55	4
5	yenesew, Abiy	University of Nairobi	4	59	4
5	Oluka, Margaret	University of Nairobi	8	122	4
5	Guantai, Anastasia	University of Nairobi	5	94	4
5	Ndakala, Albert	University of Nairobi	7	52	4
5	Omosa, Leonidah Kerubo	University of Nairobi	8	87	4
5	Gathumbi, James	University of Nairobi	4	44	4

5	Akala, Hoseah M.	Kenya Medical Research Institute	4	30	4
---	------------------	----------------------------------	---	----	---

Physics 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Ominde, Calvine	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	3	27	3
1	Owiti, Edgar	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	5	32	3
3	Amuhaya, Edith K.	United States International University Africa	2	11	2
3	Angeyo, Kalambuga Hudson	University of Nairobi	2	11	2
3	Barasa, Godfrey Okumu	Jaramogi Oginga Odinga University of Science & Technology	2	14	2
3	TONNANG, Henri	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	3	8	2
3	Simiyu, J.	University of Nairobi	2	11	2
3	Amolo, George O.	Technical University of Kenya	6	13	2

Plant & Animal Science 分野

分野内順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H-Index
1	Ekesi, Sunday	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	92	673	13
2	Subramanian	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	31	289	10
2	Mohamed, Samira A.	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	47	447	10
4	Khamis, Fathiya M.	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	42	257	9
4	Tanga, Chrysantus M.	International Centre of Insect Physiology & Ecology (ICIPE)	32	267	9

Psychiatry_Psychology 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Oburu, Paul	Maseno University	30	586	14
2	Ndetei, David	University of Nairobi	35	249	10
3	Abajobir, Amanuel	African Population & Health Research Centre	8	206	7
4	Kumar, Manasi	University of Nairobi	14	97	6
5	Weke, Elly	Kenya Medical Research Institute	5	54	4
5	Ngure, Kenneth	Jomo Kenyatta University of Agriculture & Technology	8	50	4
5	Jaoko, Walter	University of Nairobi	4	31	4
5	Onono, Maricianah	Kenya Medical Research Institute	6	25	4
5	Ongeri, Linnet	Kenya Medical Research Institute	8	37	4
5	Othieno, Caleb	University of Nairobi	7	55	4
5	Kuria, Mary W.	University of Nairobi	6	37	4

Social Sciences, general 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
1	Kyobutungi, Catherine	African Population & Health Research Centre	30	485	12
2	Kabiru, Caroline W.	African Population & Health Research Centre	20	208	10
3	Ajayi, Anthony Idowu	African Population & Health Research Centre	21	139	9
3	Onywera, Vincent O.	Kenyatta University	11	518	9
5	Gichangi, Peter	Technical University of Mombasa	20	161	8
5	Asiki, Gershim	African Population & Health Research Centre	15	150	8
5	Abajobir, Amanuel	African Population & Health Research Centre	16	201	8

Space Science 分野

分野内 順位	研究者名	所属機関	論文数	被引用数	H- Index
-----------	------	------	-----	------	-------------

1	Olwendo, Joseph Ouko	Pwani University	3	21	2
2	Wekesa, S.	University of Nairobi	1	4	1
3	Langa, M.	University of Nairobi	1	0	0
3	Mito, C.	University of Nairobi	1	0	0
3	Wamalwa, Dismas S	University of Nairobi	1	0	0

(5) 研究開発活動の特徴

ケニアにおける研究状況として、論文数を指標とする下記の分析結果を以下に紹介する。

表 3.5-42：ケニアにおける研究者の論文数（2016~2020 年）

論文数	世界シェア	被引用数	Top 1%	Top 1%世界シェア	Top 10%	Top 10%世界シェア	論文数世界順位
12,372	0.1326%	193,087	216	0.2363%	1,585	0.1783%	68

上記の表に関し、下記の定義説明を参照されたい。

表 3.5-43：定義説明

国名	対象国
論文数	対象国の論文数
被引用数	対象国の論文の被引用数の合計
Top 1%	対象国の論文の内、percentile 値*が 99 以上の論文数
Top 1%世界シェア	対象国の Top1%論文数/全世界の Top1%論文数(91,398 報)
Top 10%	対象国の論文の内、percentile 値*が 90 以上の論文数
Top 10%世界シェア	対象国の Top10%論文数/全世界の Top10%論文数(888,915 報)
論文数世界順位	対象国の論文数の全世界での順位

*percentile 値: 分野 (WOS 分野)、発行年、論文の種類(原著論文、総説など)が同じ論文を被引用数が多い順に並べ、その順位を 1 位が 100%、最下位 (被引用数が 0 の論文) が 0% になるように百分率で表した値

Nature Index⁵²⁷の研究機関ランキングでは、ケニアの研究機関・組織はトップ 500 に入っていない。国内ランキングは以下のようにになっている。

⁵²⁷ 出典：<https://www.natureindex.com/annual-tables/2021/institution/all/all/countries-South%20Africa>

表 3.5-44 : Nature Index ケニア国内機関ランキング⁵²⁸

順位	機関名	2019年 シェア	2020年 シェア	2020年 カウント	2019-2020年 調整後シェア
1	International Livestock Research Institute (ILRI)	0.2	1.49	9	609.7
2	National Museums of Kenya (NMK)	1.13	1.26	11	8
3	Kenya Medical Research Institute (KEMRI)	2.07	1.09	9	-49.2
4	International Center for Insect Physiology and Ecology (ICIPE)	1.03	0.5	1	-53.1
5	University of Nairobi	1.04	0.39	7	-63.5
6	African Butterfly Research Institute	—	0.37	3	N/A
7	Maseno University	0.35	0.3	1	-17.4
8	Kenya Wildlife Service (KWS)	—	0.3	3	N/A
9	University of Eldoret	0.01	0.21	1	1,470.30
10	Mpala Research Centre (MRCC)	—	0.18	3	N/A
11	African Population and Health Research Center (APHRC)	0.01	0.14	4	1,059.00
12	Dedan Kimathi University of Technology (DKUT)	—	0.13	1	N/A
13	Vestergaard Frandsen (EA) Ltd	—	0.11	1	N/A
14	Bungoma County Government	—	0.08	1	N/A
15	Busia County Government	—	0.08	1	N/A
16	African Conservation Centre	—	0.08	2	N/A
17	United States International University (USIU)	—	0.06	1	N/A

⁵²⁸ ※シェアは、機関、都市、国・地域に割り当てられた論文の小数カウントで、その機関や地域に所属する著者の割合を考慮している。

※調整後シェアは、Nature Index に掲載されている論文の総数の年間変動を考慮している。Count (カウント) - 論文において、ある国ないし機関から 1 人でも著者として名前が挙げられていれば、その国ないし機関の論文 1 点 (Count を 1) として数える計算方法。その論文に著者が 1 人しかいなくても、100 人の著者がいても、それぞれの著者の所属国 (または機関) において論文 1 点として数えられることになるため、同じ 1 本の論文が、複数の国 (または機関) において Count として数えられることを意味している。

Share (シェア) - Share は、ある論文に対する各共著者の相対的貢献度を考慮に入れる方法。論文 1 本につき最大 Share は 1.0。この 1 点分を、共著者全員が等しく貢献したという仮定のもと、共著者間で等しく分ける。例えば、10 人の共著者がいる論文の場合、各共著者はそれぞれ 0.1 分の Share を割り振られることになる (Nature Index は、国、地域、または機関による論文への貢献を収集し、それらが 2 回以上カウントされないようにするために、Share を使用する。機関の Share の合計は、個々の所属著者の Share を合計して計算される。この計算法は、国と地域で同じだが、一部の機関は海外に研究拠点があり、ホスト国・地域の合計にカウントされるため、複雑になっている)。

18	Kenya Industrial Research and Development Institute (KIRDI)	—	0.06	1	N/A
19	Kenyatta University (KU)	—	0.06	1	N/A
20	Safe Water and AIDS Project (SWAP)	0.38	0.05	1	-87.1
21	World Agroforestry Centre (ICRAF)	0.02	0.04	2	54
22	Pan-African University (PAU)	—	0.04	1	N/A
23	Coastal Oceans Research and Development in the Indian Ocean (CORDIO)	0.01	0.01	1	78.7
24	Animal Clinic Mombasa	0.01	0.01	1	-13.3
25	Nakuru District Veterinary Scheme Ltd.	0.01	0.01	1	-13.3
26	Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology (JKUAT)	0.13	0.01	1	-91.4
27	Kenya Fisheries Service (KeFS)	—	0.01	1	N/A
28	University of Embu	0	0	2	-11.8
29	Synotech Consultants	0	0	1	-67.4

(6) 共同研究相手国

共著論文数から見る共同研究相手国は以下のようになる。

表 3.5-45：2016~2020 年の分野別・国別共著論文数（複数表）⁵²⁹

Agricultural Sciences分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	268	4,586
2	UNITED KINGDOM	176	3,094
3	GERMANY	166	2,178
4	ENGLAND	131	2,317
5	NETHERLANDS	117	2,835

Biology & Biochemistry分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
-------	----	-----	------

⁵²⁹ 出典：クラリベイトアナリティクス

1	USA	87	2,439
2	UNITED KINGDOM	61	1,670
3	ENGLAND	60	1,669
4	CHINA MAINLAND	43	842
5	GERMANY	37	1,231

Chemistry分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	CHINA MAINLAND	39	375
2	SOUTH AFRICA	35	337
3	GERMANY	23	150
4	USA	21	214
5	SWEDEN	10	56

Clinical Medicine分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	1,303	65,989
2	UNITED KINGDOM	791	56,419
3	ENGLAND	768	55,974
4	SOUTH AFRICA	402	53,518
5	SWITZERLAND	283	46,342

Computer Science分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	10	249
1	CHINA MAINLAND	10	277
3	UNITED KINGDOM	6	45
3	SOUTH AFRICA	6	63
3	ENGLAND	6	45

Economics & Business分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	54	868
2	GERMANY	24	272
3	UNITED KINGDOM	18	215
3	SOUTH AFRICA	18	68
5	ENGLAND	17	215

Engineering分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	CHINA MAINLAND	33	335
2	USA	25	237
3	UNITED KINGDOM	21	185
4	SOUTH AFRICA	19	108
4	ENGLAND	19	171

Environment_Ecology分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	467	11,150
2	UNITED KINGDOM	364	9,754
3	ENGLAND	323	8,006
4	GERMANY	230	7,081
5	SOUTH AFRICA	169	4,247

Geosciences分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	84	2,540
2	UNITED KINGDOM	72	2,388
3	GERMANY	68	2,263
4	ENGLAND	62	2,282
5	CHINA MAINLAND	60	2,093

Immunology分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	872	11,521
2	UNITED KINGDOM	406	7,196

3	ENGLAND	393	7,041
4	SOUTH AFRICA	224	5,028
5	UGANDA	182	3,091

Materials Science分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	SOUTH AFRICA	20	158
2	CHINA MAINLAND	14	178
3	UNITED KINGDOM	7	29
4	INDIA	6	28
4	NIGERIA	6	49

Mathematics分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	SOUTH AFRICA	9	75
2	USA	5	19
3	UNITED KINGDOM	4	22
3	ENGLAND	4	22
3	TANZANIA	4	7

Microbiology分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	181	3,359
2	UNITED KINGDOM	117	1,995
3	ENGLAND	96	1,800
4	GERMANY	58	1,304
5	SOUTH AFRICA	56	842

Molecular Biology & Genetics分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	105	3,695
2	UNITED KINGDOM	89	3,312
3	ENGLAND	78	3,227
4	CHINA MAINLAND	75	1,778
5	AUSTRALIA	38	953

5	SCOTLAND	38	1,439
---	----------	----	-------

Multidisciplinary分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	18	561
2	UNITED KINGDOM	14	475
3	ENGLAND	12	381
4	BELGIUM	7	77
5	UGANDA	5	29

Neuroscience & Behavior分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	30	2,179
2	UNITED KINGDOM	26	2,200
3	ENGLAND	25	2,178
4	SOUTH AFRICA	17	1,968
5	NETHERLANDS	16	2,026

Pharmacology & Toxicology分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	52	475
2	UNITED KINGDOM	34	362
3	SOUTH AFRICA	32	328
3	GERMANY	32	268
5	ENGLAND	30	345

Physics分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	SOUTH AFRICA	33	164
2	CHINA MAINLAND	11	71
3	INDIA	5	7
3	USA	5	30
5	GERMANY	4	32
5	NIGERIA	4	10

Plant & Animal Science分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	335	3,503
2	UNITED KINGDOM	257	2,713
3	ENGLAND	204	2,230
4	SOUTH AFRICA	186	1,551
5	GERMANY	185	1,896

Psychiatry_Psychology分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	201	2,850
2	UNITED KINGDOM	77	1,449
3	ENGLAND	71	802
4	NETHERLANDS	49	1,265
5	ITALY	40	1,412

Social Sciences, general分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	USA	791	8,439
2	UNITED KINGDOM	568	6,568
3	ENGLAND	555	6,464
4	SOUTH AFRICA	269	3,469
5	CANADA	181	2,653

Space Science分野

分野内順位	国名	論文数	被引用数
1	SOUTH AFRICA	3	40
2	USA	2	29
2	NIGERIA	2	26
4	MEXICO	1	4
4	UNITED KINGDOM	1	4
4	INDIA	1	1
4	BRAZIL	1	4
4	GERMANY	1	14
4	ENGLAND	1	4

4	SPAIN	1	4
4	UGANDA	1	0
4	ITALY	1	14
4	CHINA MAINLAND	1	6
4	COTE IVOIRE	1	1

(7) IT 普及状況

世界知的所有権機関（WIPO）と国際電気通信連合（ITU）の調査によると、ケニアの IT 普及状況は以下ようになる。

表 3.5-46：ケニア IT 普及状況（WIPO-GII 2021）⁵³⁰

項目	スコア	ランク
3.1 Information and communication technologies(ICTs)	47.7	96
3.1.1 ICT access	41.8	105
3.1.2 ICT use	21.7	112
3.1.3 Government's online service	67.6	75
3.1.4 E-participation	59.5	87

表 3.5-47：ケニア IT 世帯普及率・個人使用率（ITU データより）⁵³¹

端末・サービス	世帯普及率	データ取得年
携帯電話	—	—
コンピュータ	8.8%	2019 年
インターネットアクセス	17.9%	2019 年

端末・サービス	個人使用率	データ取得年
インターネット	22.6%	2019 年

⁵³⁰ Global Innovation Index 2021, WIPO,
https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo_pub_gii_2021.pdf

⁵³¹ ITU World Telecommunication/ICT Indicators Database.

出典：ITU 統計 <https://www.itu.int/en/ITU-D/Statistics/Pages/stat/default.aspx>

(8) 科学技術・研究開発力

i) 研究開発費

統計によると、2010年のケニアの国内研究開発費総額（GERD）は名目、購買力平価換算76,356万ドルとなっている。資金源別研究開発費を見ると海外部門が47%と5割弱になっており、ケニアの研究開発は海外からの資金投入、資金援助が主要財源となっている。

表 3.5-48：2010年 ケニア研究部門別研究開発費(GERD 名目、購買力平価、千ドル)⁵³²

	企業部門	政府部門	高等教育部門	民間非営利部門	合計
研究部門別研究開発費	66,104	310,304	298,206	88,947	763,561
部門別比率	8.7%	40.6%	39.1%	11.6%	100.0%

表 3.5-49：2010年 ケニア資金源別研究開発費（GERD 名目、購買力平価、千ドル）⁵³³

	企業部門	政府部門	高等教育部門	民間非営利部門	海外部門	合計
資金源別研究開発費	33,144	198,252	145,270	26,938	359,956	763,561
部門別比率	4.3%	26.0%	19.0%	3.5%	47.1%	100.0%

ii) 研究関連指標

世界知的所有権機関（WIPO）の Global Innovation Index（GII）2021年のレポートではケニアの総合得点は27.5で世界ランク85位となっている。

以下に総合得点、各指標のスコア、ランク、およびレーダー図を示す。

表 3.5-50：Global Innovation Index 2021（WIPO）⁵³⁴

項目	スコア	ランク
総合得点	27.5	85
各指標得点	スコア	ランク
Institutions	59.9	80
Human capital and research	21.9	92
Infrastructure	25.9	114

⁵³² 出典：UNESCO 統計 http://data.uis.unesco.org/Index.aspx?DataSetCode=NATMON_DS#

⁵³³ 出典：UNESCO 統計 http://data.uis.unesco.org/Index.aspx?DataSetCode=NATMON_DS#

⁵³⁴ Global Innovation Index 2021, WIPO, https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo_pub_gii_2021.pdf

Market sophistication	48.8	54
Business sophistication	23.4	77
Knowledge and technology outputs	21.1	65
Creative outputs	16.7	95

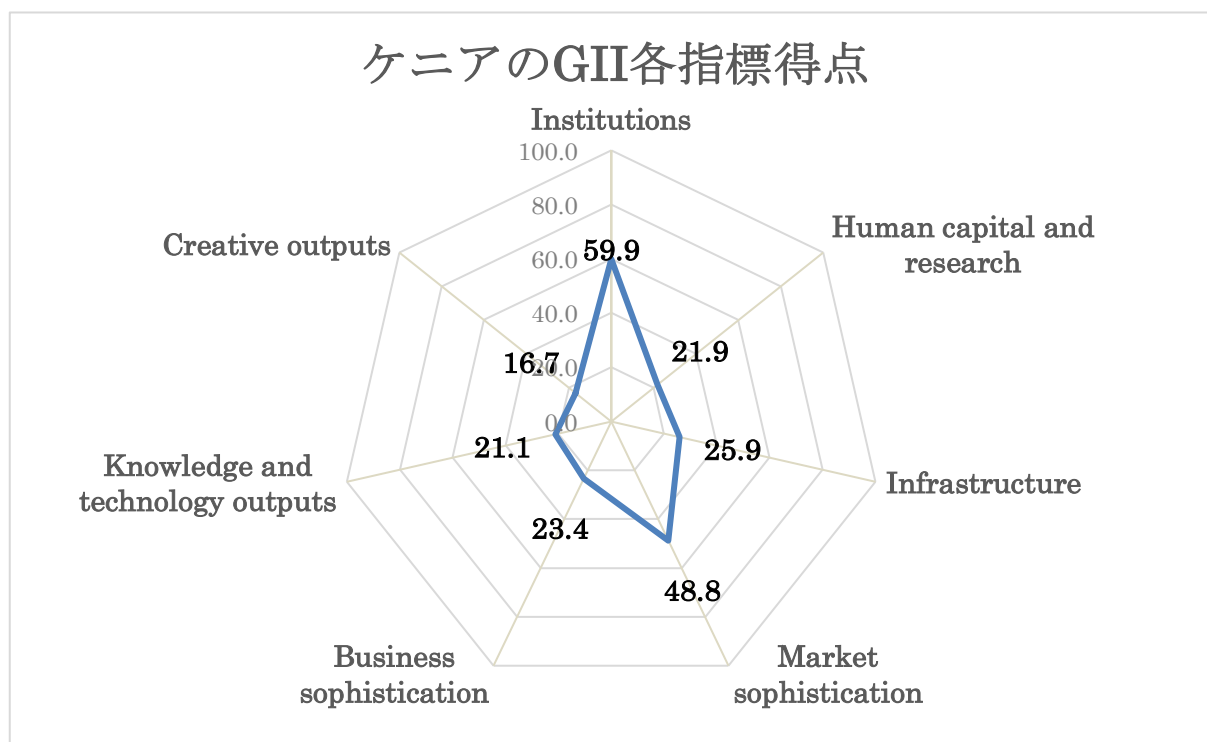


図 3.5-8 : Global Innovation Index 2021 各指標得点チャート⁵³⁵

⁵³⁵ Global Innovation Index 2021, WIPO,
https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo_pub_gii_2021.pdf